

所ノ一般ノ通常副税非常副税ト稱スル者營業税ニ六十二「サンチーム」アリ門
 窓税ノ副税八十二「サンチーム」ニ中央政府ニ收入スル一般ノ副税十九「サンチ
 ーム」アリ動産税ノ副税百十三「サンチーム」ノ中亦一般ノ副税二十一「サンチー
 ム」アリ而シテ地租ニハ中央政府ニ收入スル所ノ一般ノ副税ナキヲ以テ其副
 税ハ皆地方費ニ宛ル所ノモノナリ各縣ニ就テ之ヲ見ル時ハ或ル部分ニ於テ
 ハ副税ノ額大ニ中央政府ニ收入スル直税ノ額ニ超過スル者頗ル多シ千八百
 七十四年ニ於テハ地租ノ副税百「サンチーム」以上ニ達スル地方アル者二十四
 縣アリ而シテ其中百二十「サンチーム」以上ニ達スル地方アル者七縣アリ加之
 ナラス百四十「サンチーム」以上ニ達スル地方アル者七縣ノ中三縣アリ即チコ
 ルス縣ニハ百四十七「サンチーム」ニ及フ地方アリサヴワ縣ニハ百六十三「サン
 チーム」ニ及フ者アリオート、ルワール縣ニハ二百一十一「サンチーム」ニ達スル者
 アリ
 蓋シ數年ヲ出スシテ全國ノ諸縣殆ト皆其地方副税ノ額直税正税ノ收入ニ超
 過スルニ至ルモ計ルヘカラス

千八百七十七年ノ豫算ヲ見ルニ地租正税ノ額一億七千二百四十萬「フランク」
 ニシテ其副税ノ額一億六千八百四十四萬「フランク」アリ分頭及動産税ノ正税
 及中央政府ニ收入スル一般ノ副税ハ合セテ五千八百五十萬「フランク」其地方
 副税ハ五千萬「フランク」アリ然ルニ分頭及動産税ノ副税ハ獨リ動産税ニ及テ
 分頭税ニ及ハス是故ニ若シ分頭及動産税ノ收入額ヨリ分頭税ノ額ヲ扣除セ
 ハ中央政府ニ收入スル所ノ動産税ノ額即チ家賃税ノ收入額ハ凡ソ四千百萬
 若クハ四千二百萬「フランク」ニシテ同税ニ依テ地方ニ收入スル者ハ中央政府
 ニ收入スル者ニ超ユルヲ八九百萬「フランク」ニ過クヘシ門窓税ノ正税及中央
 政府ニ收入スル一般ノ副税ハ千八百七十七年ノ豫算ニ於テ四千五十萬「フラ
 ンク」其地方副税ハ僅ニ二千四百五十萬「フランク」アリ又全年ノ豫算ニ據レハ
 營業税ノ正税及一般ノ副税ハ一億千七百萬「フランク」ニシテ其地方副税ハ六
 千五百五十萬「フランク」アリ
 斯ノ如ク今日已ニ動産税ニ於テハ分頭税ヲ扣除スレハ地方費ニ收入スル者
 ハ中央政府ニ收入スル者ニ過キ地租ニ於テハ地方費ニ收入スル者ト中央政

府ニ收入スル者ト殆ト相同キヲ以テ地方費ノ超過スルニ至ルハ一二年ヲ出
サルヘシ之ニ反シテ門窓税ノ收入額ハ地方費ニ收入スル者ト中央政府ニ收
入スル者ト相均カラス其五分ノ三ハ中央政府ニ收入シ五分ノ二ヲ以テ地方
費ニ收入ス營業税ハ凡ソ其三分ノ二ヲ中央政府ニ收入シ三分ノ一強ヲ以テ
地方費ニ收入ス

佛國地方直税ノ改正ハ中央政府直税ノ改正ト相離ルヲ得ヘカラス宜ク土地
歳入ノ算定ヲ改正シ鄉村ノ不動産ニ課スル所ノ税ヨリ建物ニ課スル所ノ者
ヲ分離シ動産税ヲシテ更ニ家賃ノ價格ニ比例スルヲ得セシメ門窓税ヲ廢シ
テ動産税ニ加ヘ已ニ論シタル如ク營業税ノ賦課ヲ改良スヘシ縣費ノ爲メニ
地租及動産税(家賃税)ニ附加スルヲ營業税ニ過ルヲ著ルシキハ余輩敢テ之ヲ
不可トセサルヘシ

市邑税ノ問題ハ縣税ニ比スレハ頗ル困難ナリトス元來市邑ニシテ若シ其市
邑カ一都府ナル時ハ縣ニ比スレハ經費ノ種類夥多ニシテ其額巨大ナリ縣費
ノ爲メニ直税ニ附加スル所ノ副税ハ縣費ノ四分ノ三若クハ四分ノ三餘ニシ

テ其餘ヲ縣有財産ノ收入若クハ中央政府ノ交付シタル共有基金ノ配賦ニ取
ルト雖モ市邑費ノ爲メニ附加スル副税ハ僅ニ佛國惣市邑收入高ノ三分ノ一
若クハ四分ノ一ヲ供給スルニ過キス千八百七十一年ノ官報ニ據レハ千八百
七十三年九月二十五日ノ官報ヲ見ルヘシ佛國市邑ノ歳計ハ巴里府ヲ除キ經
常歳入三億千三百萬フランク臨時歳入二億千二百萬フランクニシテ臨時歳
入ハ專ラ公債ノ借入金若クハ市邑財産ノ賣拂代金ヲ以テ成レリ
右財源ノ全額中直税ノ副税ヲ以テ收入シタルハ一億百萬フランクニシテ其
六千四百萬フランクヲ通常副税トシ三千七百萬フランクハ非常副税トス
市邑費ノ財源ハ左ノ如シ

第一市邑財産ヨリ收入スル者四千九百五十萬フランクアリ

第二市邑税ノ收入ハ市邑入市税ヲ除キ一億千七百五十萬フランク

アリ然ルニ諸税ノ一部分ハ市邑財産ノ附屬ト稱スルヲ得ヘシ則チ其
著ルシキ者ハ市場墓地水道點火ノ收入道路税鋪石税學校費諸補助金
等是ナリ

第三市邑入市税即チ物品ノ間税ハ千八百七十一年ニ於テ八千六百萬フランク〔巴里府ノ入市税ヲ算入セズ〕アリ其額ノ小ナル所以ノモノハ戰爭アリシト地方ノ一部ハ兵ノ據ル所トナリシト千八百七十一年ノ初メリオン府ノ急激ナル邑會ハリオン府ノ入市税ヲ廢シタルトニ由ル千八百七十二二年ニハ巴里府ヲ除キ他市邑ノ入市税收入ハ九千八百七十五萬フランクトナリ千八百七十五年ニハ巴里府ヲ除キタル市邑入市税ノ收入ハ一億千六百九十一萬二千フランクニ達セリ

若シ之ニ加フルニ副税ヲ以テセハ市邑費ノ財源第四項ヲ得ヘシ

第四通常若クハ非常ノ市邑副税ハ千八百七十一年ニ於テ一億百萬フランクアリ

若シ之ニ加フルニ巴里府ヲ以テセハ市邑收入ノ惣額ヲ増加シ又相互ノ比例ヲ變スヘシ巴里府ノ入市税ハ一億二千五百萬乃至一億三千萬フランクヲ收入スルヲ以テ入市税ノ割合大ニ増加シ市邑財産ノ收入及副税ノ如キハ入市税ニ對スル割合大ニ減少スヘシ

右ノ如ク直税ニ附加スル市邑副税ハ佛國市邑〔巴里府ヲ除キ〕ノ經常歲入ノ殆ト三分ノ一ニシテ財産ノ收入ハ同歲入ノ六分ノ一ニ當リ市邑入市税ノ外一切ノ市邑税ハ凡ソ其三分ノ一ヲ出シ市邑入市税ハ又其餘ノ三分一ヲ給ス

千八百七十八年九月刊行ノ統計官報〔大藏省發行〕ヲ見ルニ同年中佛國市邑財政ノ景況調査ノ摘要アリ該文書ハ甚々不明瞭ニシテ全般ノ景況ヲ示スニ足ラス利スル所甚々少ナシ則チ該文書ニ於テ惣市邑〔巴里府ヲ合セ〕歲入ノ表ヲ舉ルモ其歲入中副税賦役及學校費ノ收入ヲ除ケリ何故ニ是等ノ歲入ヲ除キタルヤ余輩ハ之ヲ知ルヲ得サルナリ其示ス所斯ノ如キヲ以テ僅ニ市邑收入ノ一斑ヲ見ルニ足ルニ過キスト雖モ今該表ニ據テ之ヲ見レハ千八百七十八年ノ市邑豫算ハ市邑財産ノ收入中央政府ヨリ市邑ニ交付スル營業税ノ八〔サ〕ンチーム〔大税獵免許税罰金入市税市場税等即チ之ヲ約言スレハ一切市邑ノ收入〔四直税ニ附加スル市邑副税賦役及學校費ヲ除キ〕四億二千七百六十四萬六千七百九〔フランク〕ニシテ其獨リ巴里府ニ收入スル者一億九千六百五十九萬七千九十七〔フランク〕アリ尙ホ之ニ加フルニ該統計ニ漏ル、所ノ三種ノ

收入ヲ以テセハ佛蘭西全國市邑ノ歳入ハ凡ソ六億五千萬フランクニ達スヘ

シ

佛國市邑ノ惣數ハ三萬六千五百六十六ニシテ其副稅ヲ負擔スル景況左ノ如シ

五千五百三十七邑 十五サンチーム以下ヲ負擔ス

八千八百一邑 十五乃至三十サンチームヲ負擔ス

九千三百六十三邑 三十一乃至五十サンチームヲ負擔ス

九千二百三十八邑 五十一乃至百サンチームヲ負擔ス

三千百十七邑 百サンチーム以上ヲ負擔ス

斯ノ如ク市邑副稅ヲ拂フ國庫ニ收入スル直稅ヨリ多キ者三千餘邑アリ而シテ全國平均ノ市邑副稅ハ四十八サンチームナリ

轉シテ英國ノ地方稅ヲ見ルニ大ニ異ナルモノアリ千八百七十三年度ニ於テ英國全島地方市邑郡若クハ宗邑ノ收入ハ大約十一億三千八百萬フランク四萬五百五十三萬三千八百十五ポンドニシテ眞ノ租稅ヨリ收入シタル者ハ獨リ七億三千百萬フランクニ過キス其他ハ左ノ事項ヲ以テ成ル者トス

第一 中央政府ノ補助六千萬フランク(二百四十萬四千ポンド)

第二 借入高凡ソ二億千二百萬フランク(八百四十八萬四千八百八十六ポンド)

第三 市邑財產ノ收入若クハ市邑財產ノ賣拂代金(スタチスチカル、アブストラクト)此二收入即チ一ハ經常收入一ハ臨時收入ナル者ヲ區分セサルハ不注意ト云フヘシ(三千九百萬フランク)百五十五萬二千五百五十五ポンド)

第四 諸種ノ雜收入九千六百萬フランク(三百八十四萬八千五百四十四ポンド)眞ノ租稅ヨリ收入シタル七億三千百萬フランク(中六億八百萬フランク)二千四百三十二萬二千六十九ポンド)ハ直稅ノ收入ニ係リ一億二千三百萬フランク)ハ間稅即チ市場若クハ其他ニ課スル租稅ノ收入ニ係ル者トス元來英國ニハ入市稅ノ制ナシ假令或ル地方ニ於テ木炭ノ如キ物品ニ僅小ノ入市稅ヲ課スルコアルモ是等ハ舊時ノ遺制ノ存スルニ過キサル者ニシテ例外ノ事ナリ故ニ英國ニハ入市稅ノ制ナシト云フモ妨ケナカルヘシ

右ニ併述スル所ヲ以テ之ヲ見レハ地方直稅ハ大ニ英國ニ發達シ佛國ニ盛ン

ナラサルヲ知ルヘシ然ルニ此ニ注意スヘキハ英國ハ地方ニ於テ財源ヲ歳入
 税ニ取ル能ハサルト是ナリ余輩ハ地方税ニ關シテ英佛二國ノ景況ヲ比較ス
 ルヲ止メ直チニ進テ地方歳入ノ重要ナル者ヲ略陳セン其副税ニ至テハ敢テ
 之ヲ論セサルヘシ

市邑財産并ニ市邑ニ於テ管理スル或ル營業若クハ特占ノ事業ヨリ收入スル
 所ノ者ハ尙ホ注意スヘキモノアリ余輩ハ本書ノ第一部ニ於テ官有財産ノ收
 入ハ開明ノ進歩ニ從テ益之ヲ増加スヘキヲ論セリ實ニ市邑ニ於テモ多クハ
 其所有地ヲ居民ニ配賦シ若クハ之ヲ賣與スルヲ以テ其利トナスヘク又此事
 タル農業ノ改良生産ノ發達上ニ於テモ數々利益トナルヘシ然ルニ佛國ニ於
 テ市邑ニ五千萬フランクヲ收入スル所ノ市邑財産ハ普通ニ所謂ル「コムミ
 ー」ト稱スル者即チ其居民カ所用共有スル所ノ土地ニアラサル者ト知ル
 ヘシ假令「コムミュー」即チ居民所用共有ノ地ト雖モ六十年若クハ八十年
 若クハ九十九年ノ永年期貸ノ法ヲ以テ之ヲ貸與セハ財政上經濟上ノ點ニ於
 テ市邑ノ利益トナルヘシ然ラハ則チ市邑財産ヲ保存スルハ農業ノ進歩ト兩

立スル能ハサル者ナリト云フヘカラス故ニ余輩ハ市邑財産ヲ賣與センヨリ
 ハ寧ロ永年期貸ノ法ヲ以テ之ヲ貸與センヲ望ム者ナリ
 然ルニ殊ニ將來ニ於テ大ニ増加スヘキ傾向アルモノハ市邑作業ノ收入是ナ
 リ此問題タル余輩ノ已ニ本書ノ第一篇ニ於テ少シク論及セシ所ニシテ市場
 用水瓦斯ノ諸業ハ頗ル歳入ヲ納ル、所ノ財源タリフイスクーストラエテン
 二氏ノ精密ナル著述全英國ノ地方政治及租稅論ニ於テモ余輩ニ示スニ英國
 ノ諸大府カ用水瓦斯ニ就テ歩合ヲ得ルヲ以テセリ元來市街ニ給スルニ點
 火洗濯ノ利ヲ以テスル所ノ大事業ハ之ヲ以テ市邑ノ特占ニ歸シ若クハ之ヲ
 以テ會社ニ請負ハシメ而シテ市府ハ之ニ投シタル資本ノ利子ニ超ル所ノ者
 ヲ得ルヲ常トス數年ノ後ハ市府カ之カ爲メニ起シタル負債ヲ償還シ其事業
 ハ後ニ存シテ永ク利益ヲ得ヘシ巴里府ニ於ルカ如ク瓦斯ノ事業ヲ以テ私立
 會社ニ特許シタル時ハ其特許期限内ハ一定ノ額ヲ拂ハシムルカ若クハ利益
 ノ歩合ヲ納メシメ以テ市府ノ收入ヲ得ヘク而シテ其期限滿ルニ至レハ市府
 自ラ其事業ノ所有者トナリ坐ラ市府ノ財源ヲ増加スヘシ市場墓地等ノ諸稅

モ亦重要ナル市府ニ於テハ歲入ノ一種ニシテ輕視スヘカラサル者タリ貸馬車稅モ亦頗ル收入ヲ得ヘシ然ト雖モ大ニ是等ノ收入ヲ増加セント欲シテ其營業ヲ以テ特占トナシ居民ノ利益ヲ害セントスルノ傾向アルハ數々免レサル所ナリ

是等ノ收入ハ其種類夥多ナルモ多クハ作業ノ性質ニシテ又往々財產ノ性質ヲ有ス余輩ハ敢テ之ヲ論セサルヘシ方今ノ勢ヲ以テ之ヲ見ルニ是等ノ收入ハ日ニ益擴張ス遂ニ之ヲ以テ市邑入市稅ヲ他日ニ廢スルヲ得ン

諸縣ノ所有財產ノ收入モ亦決シテ靜止セサルヤ疑フヘキモノナシ佛國ノ中七八十年ヲ出スシテ縣有ニ歸スヘキ地方ノ利益タル鐵道ヲ有セサル所ノ縣ナシ尤モ諸鐵道ノ中往々利益ヲ生スルニ足ラサル者アリト雖モ已ニ其利益ヲ生スル者アリ又利益ヲ生スルニ至ルヘキ者アリ又掘割ヲ開鑿シ其所有トナス所ノ縣モ少ナカラス是等ノ如キハ其工費ヲ償還スル時ハ純然タル收入ヲ其縣ニ納ル、ニ至ルヘキナリ
然レトモ縣有財產ノ價格ト歲入ヲ増加スルハ甚タ遅々タルヘク而シテ又自

ヲ制限アルヘシ之ニ反シテ市府ノ作業ハ其擴張大ニシテ且ツ頗ル速カナルヲ得ヘキ者ナリ

佛國ニ於テハ數々論難セラレタル一ノ市邑稅アリ稱シテ「プレスタシオン、アン、ナチュール」ト云ヒ村道ノ築造修繕ノ爲メニスル所ノ者ナリ千七百八十九年以前ニアリテハ道路ハ領主ノ所有財產トシ其自ラ經營スヘキ者ニシテ特別稅若クハ賦役即チ勞銀ヲ給セス強迫シテ勞力ヲ貢カシムル方法ヲ以テ其經費ヲ支辨セシハ吾人ノ知ル所ナリ其之カ爲メニ生シタル不正濫弊ハ今此ニ論辨スルヲ須ヒサルヘシ之ヲ以テ革命政府ハ斷然此制ヲ廢セリ然レトモ政府ハ之ニ代ヘテ適當ノ方法ヲ設置セサリシヲ以テ佛國ノ或地方ニ於テハ往々尙ホ舊法ヲ襲ケリ然ルニ諸縣ノ道路ハ往々破壞シ假令破壞スルニ至ラサル者アルモ道路ノ形情依然トシテ改良進歩スル所ナク國家ノ生産益増進スルニ當テ其不便ヲ感スルヲ日ニ甚ク立法官ハ頻ニ心思ヲ勞シテ村道ノ發達ヲ謀リ之カ良法ヲ求メタリト雖モ遂ニ其宜キヲ得ル所ナク舊來ノ嫌惡心ハ實地ノ必要ノ爲メニ步ヲ讓リ賦役「プレスタシオン、アン、ナチュール」即チ市邑

道路ノ爲メニ居民ヲ役スル方法ヲ復スルニ至レリ然レトモ舊時ノ弊ヲ恐レテ大ニ意ヲ注キ賦役法ノ不正ナル性質ヲ去リ新法ヲシテカメテ昔日ノ法ニ異ナラシメンコトヲ望メリ方今行ハル、所ノ此特別稅徵課ノ法ハ千八百三十六年五月二十一日ノ法律ヲ以テ定ル所ニシテ市邑ノ經常歲入足ラサル場合ニ於テハ村道維持ノ爲メ一ケ年三日ヲ超エサル賦役ヲ課スルカ若クハ一「フ」ランクニ付五「サンチーム」ヲ過キサル副稅ヲ以テ四直稅ノ正稅額ニ附加シテ其不足ヲ補フコトヲ得セシメタリ市邑會ハ最大額納稅者ノ義ヲ須ヒスシテ二者ノ中孰レヲ行フヘキカ若クハ二者併ヘ行フヘキカヲ決スルヲ得ル者トス凡ソ居民ノ戸主若クハ店主タル者ハ財產家、執事、農民又ハ借地農ノ別ナク荷モ直稅ヲ拂フ者ハ皆左ノ物件ニ對シテ毎年三日ノ賦役ヲ負ハサルヘカラス

第一 自身及其家族若クハ家僕ニシテ其市邑ニ居住スル健全ナル男子ノ齡十八年以上六十年以下ノ者

第二 家内用若クハ其市邑内ノ店用ニ供スル荷車、馬車及駄牛馬、車、轆牛馬、乘馬

都テ賦役ハ勞力ヲ以テスルモ代金ヲ以テスルモ被稅者ノ意ニ從フ者トス之ヲ行ハシムルカ爲メ縣會ハ郡會ノ立案ニ基キ毎年各市邑ニ於ル人馬及車ノ一日ノ勞力ニ相當スル代價ノ割合ヲ定ム被稅者ハ一定ノ猶豫期限(通例一ケ月)内ニ勞力ヲ以テスルカ代金ヲ以テスルカヲ撰定セサル場合ニ於テハ代金ヲ以テ賦役ノ稅ヲ徵收スル者トス若シ市邑會カ之ヲ議決セサルカ又ハ市邑廳カ一定ノ猶豫期限内ニ工事ヲ決行セサル時ハ縣令ハ其制限内ニ於テ市邑ニ課稅スルヲ得ヘク又ハ其工事ヲ決行スルヲ得ヘキモノトス千八百六十八年ノ法律ヲ以テ非常副稅十「サンチーム」以上ニ達スル所ノ市邑ハ第四日ノ賦役ト千八百六十七年七月二十四日ノ法律ヲ以テ村道ノ爲メニ許可セラレタル非常副稅三「サンチーム」トノ中孰レカーヲ擇ムコトヲ得ル者トセリ

該制度ノ世論ヲ免レサルハ自然ノ勢ニシテ實ニ余輩モ亦該稅ノ改良スヘキ者アルヲ見ル元來此賦役ヲ課スル者ハ特リ居民ノ人身ニ止マラス富家ノ車馬家僕ニ及フト雖モ各人カ道路ヲ利用スル所ニ對シテ精密ノ比例ヲ得ルモ

ノニアラス然ルニ之ヲ徵課スルニ方テハ代金ヲ以テスルカ勞力ヲ以テスル
 カ被稅者ノ撰フ所ニ任スルヲ以テ決シテ人民ノ自由ヲ剝奪スル者ニアラス
 惣シテ鄉村ノ居民ハ其勞力ヲ以テ賦役ニ當ルヲ大ニ利便トセリ亞米利加ノ
 英國殖民地ノ市邑ニ於テハ賦役ノ法常ニ行ハレ又其本國ニ於テモ該法ノ行
 ハレタルハ今ヲ去ルヲ甚々遠カラヌ故ニ該法ハ獨リ佛國ニ行ハレタル者ニ
 アラス加之ナラス佛國道路ノ最大部分ハ此賦役法ノ爲メニ利セラレタル者
 ニシテ若シ之レナケレハ佛國ノ道路ハ今日ノ發達ニ至ルヘカラス該法ニ依
 テ道路ヲ築造セシ者千八百三十六年ヨリ千八百六十一年ニ至ルマテ大村道
 六萬六千「キロメートル」中村道三萬八千「キロメートル」小村道十一萬六千「キロ
 メートル」トヌ加フルニ同一ノ財源ニ依テ水道十四萬橋梁六千餘ヲ建築セリ
 左ノ表ニ依テ道路ノ爲メニ市邑カ財源ヲ賦役及特別副稅ニ取ル者如何ヲ知
 ルヘシ

年代	賦役	金納	合計
自千八百三十七年 至千八百四十七年	一〇九、四四二、六四二	一三三、三六〇、六二九	二四二、八〇二、二七一
自千八百四十七年 至千八百五十七年	一六三、五七六、三〇八	一七二、五五七、三九七	三三五、一三四、七〇五
自千八百五十七年 至千八百六十七年	一七八、九九九、六九〇	二〇〇、一二七、二九九	三八八、八四二、〇六四
自千八百六十七年 至千八百六十八年	一八八、七一四、七六五	二一九、五四四、六〇〇	四〇七、二五九、三六五
自千八百六十八年 至千八百六十九年	二一八、三五六、〇二五	二一九、五四四、六〇〇	四三七、九〇〇、六二五
自千八百六十九年 至千八百七十年	八五九、〇八八、八三〇	八五八、五九八、九二六	一七一七、六八七、七五六

千八百六十一年以降勞力ヲ以テスル賦役ハ減少セヌ却テ増加セリ千八百七
 十五年村道費ノ勘定ヲ見ルニ其年度中ニ於テ村道ノ爲メニ費シタル財源ハ
 前年度ノ殘餘及減稅不納稅ノ額ヲ扣除シテ一億六千五十萬「フランク」ノ巨額
 ニ達セリ其内譯ハ左ノ如シ

一四、四〇〇、〇〇〇フランク	歳入、伐木、土地ノ賣買讓與、經常臨時ノ收入
五六、六六三、〇〇〇フランク	三日及第四日ノ賦役(千八百六十八年七月 十一日ノ法律)
一九、九六二、〇〇〇フランク	通常非常ノ特別副稅及非常ノ賦課
七、二九五、〇〇〇フランク	村道費ノ借入及他ノ諸費ノ借入

一、五〇四、〇〇〇フランク 作業補助金

二、八六六、〇〇〇フランク 寄附金

五四、四四三、〇〇〇フランク 縣費ノ補助金

六、五八四、〇〇〇フランク 中央政府ノ補助金

若シ賦役ヲ廢セント欲セハ副税トシテ凡ソ十八「サンチー」ヲ以テ直税ニ附加セサルヘカラス是レ國民ニアリテハ遙ニ現今ノ賦役ヨリ重シト考ル所ノ負擔ナルヘシ抑モ村道ハ國家繁榮ノ重要ナル財源ニシテ其發達如何ハ實ニ國家ノ盛衰ニ關スル所ナルヲ忘ルヘカラス佛國ニ於テハ千八百七十五年十二月三十一日ニ當リ村道ノ使用セラル、者實ニ三十六萬八千「キロメートル」アリ十年若クハ十五年ヲ出スシテ其延長ハ二倍若クハ三倍ニ至ルヘク其要スル所ノ費ハ數十億「フランク」ニ達スヘシ然ラハ則チ賦役税ハ之ヲ廢スヘカラズ只宜ク之カ改良ヲ謀ルヘキナリ被稅者ニアリテハ忽チ其要求セラル、所ノ勞費ノ結果如何ヲ見ルヲ得ン今白耳義ノ例ニ倣ヒ大財產家及其家僕馬車ニ課スルニ小財產家ニ課スル勞力ノ倍日數ヲ課スルモ可ナラン如何トナ

レハ馬車家僕等ノ數ハ常ニ精密ニ土地ノ歲入ニ比例スル者ニアラサレハナリ

賦役税ヲ駁スルニ賦役勞力ノ効驗ハ遙ニ勞銀ヲ與ル勞力ニ及ハサルヲ以テスヘシ或ハ賦役勞力ノ効驗ヲ算シテ通例一日勞力ノ三分ノ二ニ當ル者ナリト稱セリ是レ賦役勞力ノ欠點タルヤ疑ヲ容レス然ト雖モ此勞力ハ被稅者カ最モ閑暇ノ時ニシテ蓋シ其時間ハ所有ノ車馬ヲ用ル所ナキ場合ニ於テ之ヲ供給スヘキヲ以テ其不便ハ多少償補スルヲ得ヘシ又國家富饒ニシテ耕殖大ニ進歩シ資本裕カナル者ニアリテハ被稅者ハ自ラ他事ノ爲メニ勞働ヲ執リ若クハ其家僕車馬ヲ以テ他事ニ使用スルヲ欲セスシテ次第ニ代金ヲ以テ賦役税ヲ拂フ者ヲ増加スヘキハ疑ヲ容レサルナリ之ヲ約言スレハ都テ是等ノ不便アルニ拘ハラズ道路ノ修築スヘキ者夥多ナル間ハ村道改良發達ノ爲メニ賦役税ノ法ハ方今ノ如ク勞力又ハ代金ヲ以テスル隨意ノ制ニ由リ之ヲ存スルノ良キニ如カサルカ如シ

官府ノ文書ニ據テ之ヲ見レハ勞力ノ賦役税ヲ撰フ者百人ニ付七十人ノ割合

ニシテ山地方ノ十二縣ニ於テハ殆ト皆勞力ヲ以テ賦役稅ヲ辦セリ又縣會ニ於テ定メタル稅率ニ據レハ賦役一日ニ當ル代金ノ平均ハ「フランク」二十五「サンチーム」ナリ

千八百七十五年賦役稅ノ惣價格ハ五千六百六十六萬三千「フランク」ニシテ眞ニ勞力ヲ以テシタルハ三千四百萬「フランク」ニシテ二千二百五十萬「フランク」ハ代金ヲ以テ納メタル者ナリ諸縣會ハ近年賦役稅ヲ廢シテ副稅ヲ以テ之ニ代ルニ至ルヘキ法律ノ案ヲ議シタルニ七十一縣會ハ之ヲ非決シ其案ニ同意ヲ表シタルハ僅ニ十三縣ノミ

次テ佛國市邑稅ノ最モ重要ニシテ最モ非難ヲ免レサル所ノ「オクトロワ」市邑入市稅ト稱スル消費稅ヲ論セシヂユーカンズ氏ノ辨書ニ據レハ該稅ノ名ハ晚世羅甸語ノ「オットリユム」リセンチア「ヴハサロ、ダタ」ヨリ來ル者ニシテ「オクトロワ」稅市邑入市稅ヲ以テ久ク已ニ主權ノ一部ヲ分與シタル者トナセシヲ見ルヘシ又古代ノ法令ヲ見ルニ市邑ニ許スニ消費稅ヲ課スルヲ以テシ君主ハ其若干分ヲ徵收セシ「ア」例ヘハ千三百二十三年ニ於テハ其三分ノ二

ヲ徵收シ千六百六十三年ニハ其半額ヲ徵收セリ「デ、パリ、コー」氏ノ租稅論第四卷第九葉ヲ見ルヘシ第十七世紀ニ方テハ市府ノ入市稅ノ半額ヲ以テ中央政府ニ分與スルヲ常トセリ中央政府ト市邑ノ間ニ右ノ關係ヲ有スル遺蹟ハ當代ニ至ルマテ之ヲ存シ第十九世紀ノ初メニ於テハ市邑入市稅ノ純收入額十分ノ一ヲ以テ國庫ニ收入スヘキモノトセリ其之ヲ廢シタルハ實ニ千八百五十二年ノ豫算ヲ定メタル時ニアリ以太利ニ於テハ市邑入市稅ノ大部分即チ凡ソ三分ノ一ヲ以テ中央政府ニ徵ス

千七百九十一年佛國ノ委員惣會ハ一切市府ノ輸入ニ課シタル租稅ヲ廢セリ然ルニ是只ニ數年間停止シタルニ過キスシテ指揮官政府ハ不幸ニモ此舊稅ヲ再興スルノ議ヲ發シ革命ノ第七年一月ノ法律ヲ以テ「巴里」府ニ於テ再ヒ入市稅ヲ設置シ「ミュニシパル、エ、デ、ビアン」フ「エーザン」スト稱セリ革命ノ第八年三月一般ノ法律ヲ以テ一府ニシテ「カントン」ヲナス者ハ地方間稅ヲ設置スルヲ得セシム此ニ於テ諸市邑ハ爭フテ入市稅ヲ興シ二年ヲ出スシテ佛國中

市邑入市稅ヲ課スル者二百九十三ニ至レリ爾後其數益増加シ革命ノ十三年

ニ方テハ佛國ハ實ニ百八縣ニシテ市邑入市稅ヲ行フ者惣數三千二百六十二ニ達セリ然ルニ佛國ハ其土地ヲ失ヒタルト或ル市邑ニ於テ入市稅ヲ廢シタルトニ由リ其數凡ソ半ヲ減セリ千八百六十二年市邑入市稅ノ惣收入ハ諸縣ノ市邑及巴里府ヲ合セテ一億五千七百萬フランク千八百七十五年ニハ市邑入市稅ヲ行フ所ノ市邑ハ巴里府ヲ合セテ千五百二十六其收入ハ二億三千五百萬フランクニ達セリ

抑モ該稅ハ生産物ノ運轉交換ヲ妨ル者ニシテ其性質ニ於テハ嫌フヘキモノトス又弊害ノ其中ニ附帶シテ到底之ヲ芟除スヘカラサルモノアリ而シテ其負擔ハ決シテ平均ヲ得ルモノニアラス故ニ該稅ノ負擔ニ堪サルニ至ラシメサルカ爲メ制限ヲ嚴守シテ其外ニ馳セサランコトヲカメサルヘカラス佛國ノ立法官モ亦此點ニ於テ從來注意ヲ欠カサルナリ

元來市邑入市稅ヲ課スルハ如何ナル物品ニ於テスヘキカヲ決スルハ至難ノ業トス實ニ是レ臆想ヲ以テ斷定スルニ過キス如何トナレハ此物品ニ課セスシテ彼物品ニ課スルハ物品ノ性質ニ存スルモノニアラサレハナリ千八百十

四年ノ法令ヲ以テ佛國政府ハ穀物、麥粉、菓物、バター、牛乳、野菜、其他數種ノ雜品ニ入市稅ヲ課スルヲ禁シ該稅ヲ課スルヲ得ヘキ物品ヲ分テ五級トセリ

- 第一 飲料品及流動物
- 第二 食品
- 第三 薪炭
- 第四 秣草
- 第五 物品

右ノ分級法ハ今ニ至テ尙ホ存シ其名ハ現ニ行ハルヘキモノナリト雖モ其實ハ此分級ヲ行ハサルモ可ナル者ナリ故ニ法律ヲ以テ模本ヲ定メタルカ如キ者ニシテ行政府地方廳ハ必スシモ之ヲ確守スルヲ要セサル者トス其稅率表ニ至テハ只物品ヲ歷舉シ其間連絡スル所ナク市邑ノ偶然決定スル所若クハ「イロハ」順ニ由テ對比列叙スルヲ得ヘシ加之ナラス第五項ノ物品ト稱スル者ハ果シテ如何ナル者カ明知スルヲ得サル所ナリ其制限區域ノ模糊タル市邑ヲシテ不測ノ淵ニ陷ラシムルニ至ラントス豈ニ危カラスヤ

千八百十六年四月二十六日ノ法律ハ千八百十四年ノ法令ニ比スレハ一層寛
 潤ニシテ地方ノ消費品ニ係ル物品ハ市邑入市税ヲ課スルコトヲ得セシメ敢テ
 之カ制限ヲ定メス故ニ此法律ニ據レハ麥粉及麥ノ如キニ至ルマテ市邑入市
 税ヲ課スルヲ得ル者ト考フルニ至レリ是ニ於テ諸市邑殊ニ帝政ノ時巴里府
 ノ如キハ製造シテ府外ニ出タシ一般ノ貿易品トナスカ爲メニ製造所ニ於テ
 使用スル所ノ物品ニ課スルニ市邑入市税ヲ以テセント議セシコアリ此ノ如
 ク法律ヲ解釋スルハ嚴刻ニ過ル者ニシテ且ツ弊害ヲ免レサルヤ明カナリト
 雖モ果シテ之ヲ以テ法律ニ違フ者ナリト云フヲ得ヘキヤ否ヤ甚々疑フヘキ
 モノアリ此ノ如キ不便ヲ避ルカ爲メニ更ニ一令ヲ發シテ一般ノ貿易ニ供ス
 ル生産品ノ製造ニ使用スル材料ニ市邑入市税ヲ課スルヲ禁セリ然ルニ此一
 令徴リセハ石炭曹達其他一切ノ粗生品ニ該税ヲ課スルコトヲ得ヘキナリ行政
 上ノ決議及布達ヲ以テ左ノ物品ニ市邑税ヲ課セサル者トセリ

- 第一 官船ノ消費品
- 第二 火藥製造ニ用ル材料

第三 政府ノ印刷物

第四 藥種

第五 鰾魚

是等ノ制限外ニ於テハ市邑入市税ヲ課スル者一定ナラス市邑各其意ニ隨テ
 徴課シ實ニ不規則ヲ免レサルモノアリ元來砂糖咖啡ノ如キ已ニ關稅ヲ課シ
 タル物品ハ習慣ニ由テ市邑入市税ヲ課セサルヲ通例ト爲スト雖モ是只ニ習
 慣ヨリスルニ過キス故ニ砂糖ノ如キハ佛國ノ中部及南部ニ於テハ時トシテ
 之ニ税スル者アリ

一般ノ主義ニ於テハ市邑入市税ハ單ニ歲入ヲ得ルヲ目的トスル者ニシテ決
 シテ保護ノ性質ヲ有スヘキモノニアラス故ニ市邑及其近傍ノ生産ヲシテ他
 地方ノ生産ノ競争ヲ避ケシメント欲スル目的若クハ効驗ヲ有セサルナリ然
 ルニ某市府ニ於テハ自己ノ生産ヲ保護セント欲シテ不同ノ稅率ヲ設ル者アリ
 時トシテ參事院ハ人造ノ秣草ト天造ノ秣草ト牝牛ト牝牛甲季ノ子羊ト乙季
 ノ子羊甲地產ノ葡萄酒ト乙地產ノ葡萄酒ト稅率ヲ異ニスル者ヲ斥ケ以テ其

弊害ヲ除カンコトヲ欲セリト雖モ是レ只ニ弊害ヲ減少スルヲ得ルモ決シテ之ヲ免除スルヲ得ス此弊害タル入市税ノ制ト附帶シタル者ニシテ此制ヲ廢スルニアラサレハ其弊ヲ除クヲ得サルナリ抑モ地方ノ情勢ヲ見ルニ各々自己ノ生産ヲ盛ニスルヲ首トシ他地方ヨリ到ル所ノ類似品若クハ代用品ニ税スルヲ力メ南部地方ノ如キハ麥酒ニ重課シテ葡萄酒ニ輕課シ各地方多クハ石炭ニ重課シテ薪木ノ如キハ殆ト税セサルモノアリ若クハ相互税ヲ課スル者アリ由是觀之ハ其方法ノ如何ヲ問ハス市邑入市税ハ常ニ内地ノ關稅タルヲ免レサルナリ

本文ノ不便ハ殊ニ以太利ニ於テ甚キ者ノ如シ羅馬府ニ於ル財政週報(千八百七十七年六月二十三日刊行ラスメーン、フィナンシエール)ノ通信ニ據レハ以太利ノ或ル市邑ニ於テハ石炭一「トン」ニ付市邑入市税十「フランク」ヲ課シ(尤モ石炭ハ一切關稅ヲ課セス)他ノ市邑ニ於テハ家具師ノ如キ其地方ノ營業ヲ保護スルカ爲メニ近傍ノ市邑ヨリ來ル所ノ家具ニ從價税ニ割ヲ課スト云フ

飲料品ハ通例市邑入市税ヲ課スル所ノ者ニシテ收入最モ大ナル者トス已ニ前篇ニ陳セシ如ク中央政府ハ國庫ノ爲メニ入市税ヲ課ス之ヲ以テ立法官ハ飲料品ニ課スル市邑入市税ニ制限ヲ置キ千八百十六年ノ法律ヲ以テ市邑ニ於テ飲料品ニ課スル所ノ租稅ハ中央政府ノ徵課スル所ニ過クヘカラストセリ然レトモ同法律ヲ以テ王令ニ依リ此規則ヲ超ルヲ得ヘキ者トセリ千八百五十二年國庫ニ徵收スル所ノ入市税ヲ減シテ半トナシ爲メニ市府ニ徵收スル所ノ入市税モ亦減セサルヘカラサルニ至レリ然ルニ千八百五十四年ノ財政法律ヲ以テ人口四千以上ノ市府ニ於テ徵收スル所ノ飲料品ノ市邑入市税ハ國庫ニ徵收スル入市税ノ倍額ヲ以テ最高度ト定メ市邑入市税ノ形狀再ヒ舊ニ復セリ然ルニ此最高額ヲ超過セント欲セハ特ニ法律ヲ以テ定メサルヘカラサル者トセリ

奸曲ノ弊ヲ防禦スルノ意ヲ以テ千八百十六年ノ法律ハ大市府ノ外部ニ屬スル市邑ハ假令之ヲ欲セサルモ市邑入市税ヲ課スルヲ得ヘク其區域内ニ於テ徵收シタル市邑入市税ハ各自ノ市邑庫ニ送付スル者トセリ是レ財政法ノ不

規則不權衡ヲ免レサル者ト云フヘシ如何トナレハ此法律タル千八百十四年ノ法令(今日ハ廢止セラレタル者)ニ由テ定メラレタル所ニ違ヒ全ク市邑ノ本部ヨリ隔離シタル附屬村落ニ市邑入市稅ヲ課スルヲ得レハナリ

凡ソ市邑ハ財源ノ不足ニ會スルニアラサレハ市邑入市稅ニ取ルヲ得サル者トス千八百十六年ノ法律ニ據レハ被稅品稅率表徵收制限ハ皆市邑會ニ於テ之ヲ議定シ上司ハ之ヲ承認シ若クハ修正ヲ加フルヲ得ルモ新稅ヲ設置スルヲ得ス縣令ハ其意見ヲ附シ市邑會ノ議決ヲ以テ內務卿ニ送付シ內務卿ハ之ヲ取テ參事院ニ付シ參事院ハ內務部及財務部ニ於テ之ヲ審按ス今此ニ市邑入市稅ノ允可ヲ得ルニ至ルマテノ手續ヲ詳述スルハ無益ニ似タリ故ニ贅セスト雖モ往時ハ該稅廢止ノ時モ亦同一ノ手續ヲ要セリ

千八百十七年ノ法律ニ於テ市邑會ノ規則ヲ修正シ其執行毎ニ上司ノ決裁ヲ仰クヘキ者ハ左ノ如シ

- 第一 市邑入市稅ナキ市邑ニ於テ該稅ヲ設置スルヲ
- 第二 現行區域ヲ改正スルヲ

第三 一般ノ稅率表ニ包含セサル物品ニ租稅ヲ新置若クハ再置スルヲ

第四 一般ノ稅率表ニ依テ定メラレタル最高度ヲ超過スル所ノ租稅ヲ新置若クハ再置スルヲ

之ニ反シテ縣令ノ認可ニ由テ市邑會ノ決議ヲ執行スルヲ得ル者ハ左ノ如シ

- 第一 現行副稅ヲ延期スルヲ
- 第二 一般ノ稅率表ヲ以テ定メラレタル最高度以內ニ於テ「デシム」以上正稅ヲ増課スルヲ

市邑會ノ決議ニ由リ直ニ執行スルヲ得ル者ハ左ノ如シ但縣令ノ認可ヲ要セサルモ縣令ハ之ヲ執行ヲ禁止スルノ權アル者トス

- 第一 市邑入市稅ヲ廢止シ若クハ之ヲ輕減スルヲ
- 第二 市邑入市稅ノ正稅ヲ五年以內延期スルヲ
- 第三 五年以內「デシム」以下ノ租稅ヲ増課スルヲ

市邑長ト市邑會ト意見ヲ異ニスル場合ニ於テハ豫メ縣令ノ認可ヲ得ヘキモノトス國庫ニ徵收スル入市稅ノ倍額以上飲料品ニ租稅ヲ附加スルニ至テハ

尙ホ特ニ法律上ノ許可ヲ得サルヘカラサル者トス
 市邑入市税ノ組織ヲ詳述スルノ要ナキヲ以テ此ニ深ク論及セサルヘシ抑モ
 該税ハ獨リ其地方ノ消費品ニ課スルヲ以テ其地方ノ消費ニ供セサル物品ノ
 通過若クハ滞在ヲ便ニスルカ爲メ通過免許狀(パスデブ)及荷物藏預ケノ方
 法ヲ行フ者トス

第十九世紀ノ初年以降市邑入市税ノ數殊ニ收入ノ増加ハ頗ル著ルシ請フ佛
 國政府ノ文書ニ據テ之ヲ示サン

年代	市邑入市税ヲ課スル市府ノ數	市邑入市税ヲ課スル府内ノ人口	市邑純收入	徵收費	人口一人ニ當ル税額 フランク サンチーム	物收入百フランクニ對スル徵收費 フランク サンチーム
一八三三	一、四三四	五、九九七、〇〇〇	四四、六七四、〇〇〇	一七、一九七、〇〇〇	一〇、三三	二七、八〇
一八三三	一、四四八	六、三〇六、三七八	五〇、〇一九、〇〇〇	一五、九一八、〇〇〇	一〇、四六	二四、一四
一八四三	一、四六七	七、二九六、九三二	六五、〇三七、〇〇〇	一八、二二七、〇〇〇	一一、四〇	二一、八〇
一八五三	一、四七五	七、三二九、七八二	八一、六〇五、〇〇〇	一八、八一八、〇〇〇	一一、一六	一五、三七
一八六二	一、五二〇	九、五八二、一四四	一四一、二二五、〇〇〇	一八、二二四、〇〇〇	一六、四三	一〇、三〇

一八六六	一、五三〇	一〇、〇一一、〇一一	一七六、一三三、〇〇〇	一五、七四三、〇〇〇	一八、九六	八、二一
一八七一	一、五一〇	一〇、三九七、〇二二	一四〇、〇一六、〇〇〇	一六、四七四、〇〇〇	一五、〇五	一〇、五四
一八七二	一、五〇八	一〇、四六二、六七〇	一八一、九二二、〇〇〇	一七、六〇七、〇〇〇	一八、七一	八、八三
一八七五	一、五二六	一〇、五五五、一八三	二二五、七〇八、〇〇〇	一九、四四七、〇〇〇	二二、四三	八、二七

右ノ表ハ種々ノ點ニ於テ頗ル見ルヘキ者アリテ精密ニ研究スルニ足ルモノ
 ナリ右五十年間ニ市邑入市税ヲ課スル市邑ノ數ハ増加大ナラスト雖モ常ニ
 間斷ナク増加セリ而シテ其市邑ノ人口ハ増加此ヨリ大ニシテ初年ハ六百萬
 人ニ足ラサルニ末年ニハ千零五十萬人ニ達セリ是レ以テ市府ノ發達セシヲ
 見ルヘキモノニシテ此格段ナル租税ヲ負擔スル者ハ佛國人民ノ凡ソ三分ノ
 一二居ル者ナリ此年間ニ於テ増加ノ著ルシキ者ヲ市邑入市税ノ收入トナス
 千八百七十五年該税ノ收入高ハ千八百二十三年ヨリ多キヲ殆ト五倍ニ達セ
 リ此増加ハ一般間税ノ増進ニ伴ヒタル者ニシテ其異ナル者ハ市邑入市税ニ
 於テハ之ヲ負擔スル人口ヲ増加シタルヲ以テ居民一人ニ當ル負擔ハ全ク倍
 スルニ至ラサリシニアリ實ニ千八百七十五年ニ於テハ居民一人ニ當ル平均

負擔ハ二十二「フランク」四十三「サンチーム」ナリ故ニ一家四口トスレハ一家族ノ負擔スル所ハ一ケ年九十「フランク」トナルヘシ余輩ハ以爲ラク假令市邑入市税ノ多クハ被税品ノ價格ニ比例セス又之ヲ課スルハ皆普通ノ消費品ナリト雖モ細民ノ消費稀少ナル物品ニ係ル者ナキニアララス然ラハ則チ市邑入市税ハ頗ル分頭税ニ近シト雖モ純然タル分頭税ナリト税スルヲ得サルヘシ市邑入市税ノ收入ハ五倍ノ増加ニ至リシモ其徵收費ニ至テハ千八百二十三年以降殆ト増減ナク千八百二十三年ニハ千七百十九萬七千「フランク」ニシテ千八百四十三年ニハ増シテ千八百十二萬七千「フランク」トナリ千八百七十二年ニハ再ヒ減シテ千七百六十萬七千「フランク」トナリ千八百七十五年ニハ又増シテ千九百四十四萬七千「フランク」トナリシニ過キヌ之ヲ以テ惣收入額ニ對スル徵收費ノ割合ハ著ルシク減少シ千八百二十三年ニハ百「フランク」ニ付二十七「フランク」八十「サンチーム」ナリシモ千八百七十二年ニハ八「フランク」八十三「サンチーム」千八百七十五年ニハ八「フランク」二十七「サンチーム」トナレリ右ノ比例ハ平均ニ過キサルヲ以テ其實頗ル大ナル疑ヲ容レヌ現ニ諸大府

ニ於テハ徵收費ノ比例小ニシテ巴里府ノ如キハ百分ノ五ヲ超過セヌ是等ノ事實ニ由テ之ヲ見レハ世ノ市邑入市税ヲ論難スル者カ其徵收費ノ多キヲ以テ論旨トスル如キハ今日ニアリテハ往時ノ如ク適切ナルヲ得サルヘシ千八百二十年ヨリ千八百三十年ニ至ルノ間徵收費ノ平均二割五分以上ニアルニ當テ著述シタル經濟家ノ如キハ徵收費ノ多キヲ以テ非難ノ論旨トナスヲ得タリシモ今日ノ如ク其平均九分以下ニアリテハ大ニ其勢力ヲ失ヘリト云フヘシ尤モ此比例ハ單ニ平均ニ過キサルヲ以テ小市邑ノ入市税ニ至テハ蓋シ其徵收費二割乃至二割五分ニ達スル者アルヘシ後章ニ示ス所ノ表ニ據レハ大都府ノ如キモ時トシテハ徵收費ノ頗ル大ナル者アリ即チボルドー府ニ於テハ市邑入市税ノ徵收費一割六分ニ過キマルセーユ港ニ於テハ一割四分ニ過キタリ

佛國統計表ニ據リ千八百七十五年ニ巴里府及他ノ市邑ニ於テ市邑入市税ヲ課シタル物品ノ分類ヲ示ス一左ノ如シ

被税品	總收入		人口一人ニ當ル租税ノ負擔	
	巴里府	他ノ市邑	巴里府	他ノ市邑
葡萄酒	四八、八九二、一五六	二五、五二三、六一九	二四、五〇	三、〇〇
及林檎酒 蜂蜜梨酒	四三七、五三四	二、三三六、〇八二	〇、二四	〇、二七
酒精	八、三三六、三一二	六、七六三、〇三三	四、二〇	〇、七七
諸他ノ流動物	一一、七一九、九一三	一一、四六二、〇五〇	五、六〇	一、三三
食品	二二、三四六、五一二	四一、一四二、七六九	一一、二〇	四、七五
薪炭	一〇、八一八、一五六	一一、八八一、七三九	五、五〇	一、三七
秣草	三、九五九、五一五	七、二七、一四一	二、〇〇	〇、八二
材料	七、八八九、二九四	九、九〇九、〇六二	四、〇〇	一、一五
諸品	三、八四六、八六二	一、五六九、六五六	二、〇〇	〇、一九
合計	一一八、二四三、二五四	一一七、七〇五、一五一	五九、二四	一三、六四

右ノ表ニ於テ第一ニ余輩ノ注意ヲ惹起ス者ハ巴里府ノ租税ノ重キニアリ該

府ノ市邑入市税ハ千八百七十五年ニ於テ平均一人ニ付五十九フランクニシテ
 四「サンチーム」ニシテ中央政府ノ租税及他ノ地方税ヲ算セサルニ一家四口ノ
 家族ニテハ一ヶ年二百三十七フランクニ當ルモノナリ若シ市邑入市税ニシ
 テ尙ホ少シク財産ノ貧富ニ應スルモノナラシメハ右ノ額ハ敢テ非常ニ重キ
 者ニアラサルヘシト雖モ表中ニ見ルカ如ク其課税スル所ノ物品ハ殆ト皆飲
 食品ニシテ巴里府ニ於テハ千八百七十五年市邑入市税ノ收入惣額一億千八
 百萬フランクノ中飲食品ヨリ收入シタル者大約九千百萬フランクアリ如何
 トナレハ諸他ノ流動物ト稱スル一項ハ燈油ノ外皆食用若クハ貯藏用ノ飲料
 品ナレハナリ而シテ葡萄酒ヨリ收入シタル者獨リ惣收入額ノ四割餘ニ達セ
 リ元來該府ニ於テハ葡萄酒ニ市邑入市税ヲ課スルニ其品位ノ如何ヲ問ハス
 樽入葡萄酒ニハ皆同一ノ税ヲ課シ壺入葡萄酒獨リ増税ヲ課スルヲ法トス千
 八百七十五年ニ於テハ葡萄酒ノ巴里府ニ輸入セラレタル者四百三萬二千三
 百二十六「エクトリートル」ニシテ壺入葡萄酒ハ其中僅ニ一萬六千七百二十八
 「エクトリートル」ニ過キス巴里府ニ於テ葡萄酒ニ課スル所ノ市邑入市税ヲ以

テ中央政府ノ爲メニ葡萄酒ニ徵課スル所ノ他ノ諸税ニ合算スレハ實ニ葡萄酒生産地ニ於テスル所ノ普通品ノ賣價ニ超過ス又巴里府ニ於テ酒精ニ課スル市邑入市税ノ收入ハ葡萄酒ニ課シタル該税收入高ノ六分一ヲ超エサルヲ見ルヘシ

若シ市邑入市税ノ負擔ヲ以テ居民ノ諸級ニ分賦シ之カ輕重ヲ見ント欲セハ先ツ普通ノ消費ニアラサル物品ニ課スル所ノ者即チ材料ニ課スル者(收入高七百八十八萬九千「フランク」)秣草ニ課スル者(收入高三百九十五萬九千「フランク」)諸品ニ課スル者(收入高三百八十四萬六千「フランク」)又薪炭ニ課スル者(收入高千八十一萬八千五百五十六「フランク」)食品ニ課スル者(收入高二千二百三十四萬六千「フランク」)ヲ扣除セサルヘカラス是等ノ物品ニ課スル者ハ勿論財產ノ貧富ニ應スルニアラスト雖モ多少貧富ノ度ト關係ナキニアラス例ヘハ材料ノ如キハ巨大ノ家屋ニアリテハ該税ヲ拂フコト數戸ノ勞力者ヲ起臥セシムル家屋ニ於ル材料ヨリ多ク富民ノ馬ヲ有スル者ハ秣草ニ該税ヲ拂フモ貧民ノ馬ヲ有セサル者ハ物品若クハ人身運搬賃ノ騰貴ニ由リ該税ノ徵分ヲ負擔ス

ルニ過キス食品ニ至テハ屠者ノ肉ハ該税ヲ負擔スルコト甚タ輕ク麥粉ニハ全ク該税ナキヲ以テ市邑入市税ヲ重課スル者ハ魚雞卵「バタ」鳥肉、菓子、菌等ノ如キ重ニ中民以上ノ消費ニ係ル所ノ物品少ナカラス然ラハ則チ是等ノ物品ニ課スル所ノ租税ハ決シテ分頭税ト稱スルヲ得サルナリ薪炭ニ課スル者モ亦然リ尤モ貧民ニ至ルマテ火ヲ要セサル者ナシト雖モ富民ハ廣濶ノ家室ヲ有シ一時ニ多數ノ室ニ温氣ヲ取ルヲ以テ薪炭ノ税ヲ負擔スルコト貧民若クハ勞力者ヨリモ稍々多シ若シ是等ノ分頭税ニ均シカラサル租税ノ收入高ヲ合算セハ巴里府ニ於テ四千九百萬「フランク」ヲ得ヘシ即チ居民一人ニ付平均二十五「フランク」ニ當ル然ルニ此種ノ税ハ富民ノ負擔スル所モ稍々多キヲ以テ勞力者ノ徒ニ至テハ一人ニ付該税ヲ負擔スルコト平均高ノ半額即チ十二「フランク」五十「サンチム」ナリト云フモ敢テ妨ケナカルヘシ
之ニ反シテ葡萄酒ニ課スル者(收入高四千八百八十九萬二千「フランク」)林檎酒、梨酒ニ課スル者(收入高四十三萬七千「フランク」)酒精ニ課スル者(收入高三十三萬六千「フランク」)諸他ノ流動物ニ課スル者(收入高千七百七十一萬六千「フランク」)

ノ如キハ毫モ被稅者ノ貧富ト關係ヲ有セサル者ニシテ眞ノ分頭稅ト云フヘキ者ナリ而シテ此種類ニ屬スル租稅ノ收入高六千九百萬フランクアリ今之ヲ居民ニ平分スレハ一人ニ付三十五フランクニ當ル然ラハ則チ巴里府勞力者ノ徒ハ食品薪炭等ノ爲メニ拂フ所ノ十二フランク五十サンチムノ外尙ホ通常消費スル所ノ食料品若クハ流動物ノ爲メニ人毎ニ市邑入市稅三十五フランクヲ拂フモノニシテ市邑入市稅ノ項ニ於テ合計四十七フランク五十サンチムヲ拂フ者ナリ即チ一家四口ノ家族ナレハ一ケ年百九十フランクヲ拂フ者トナル千八百七十八年ニ於テハ該府ノ市邑入市稅收入ノ額一億二千八百萬フランクナリシヲ以テ之ヲ見レハ右ノ負擔額ハ一層増加セリト云フヘシ

右ノ如ク市邑入市稅ニ於テ富民ノ負擔スル所日傭勞力者ノ輩ニ過ルコト僅小ナルヲ以テ之ヲ見レハ該稅ノ不正ナルヲ知ルヘキナリ而シテ其結果タル居民ノ一部分ハ單ニ市邑入市稅ト中央政府ニ徵收スル所ノ入市稅アルカ爲メニ物價ヲ倍加シテ其貯蓄スルヲ得ヘキ金錢ヲ剝奪セラル、ニ至ル彼ノ巴里

府勞力者輩ハ何ヲ以テ葡萄酒ヲ用ルコト少ナク外國ノ飲料品ヲ以テ代用トナスコト多キヤ又巴里府ノ獨立ナル婦人勞力者ハ何ヲ以テ其健全ヲ保持スルカ爲メニ葡萄酒ヲ用ヒサルヤヲ尋ルニ他ナシ市邑入市稅及諸他ノ租稅ノ爲メニ葡萄酒一リートルニ付價二十サンチムヲ騰貴スルニ由ル巴里府ニ於テ葡萄酒ノ消費高ハ人口一人ニ付百八十リートルナリ然ルニ佛國一般ノ統計ニ據レハ他ノセーン縣ノ市邑入市稅ヲ行フ諸邑ニ於テハ三百一リートルニ上リセーン、エ、ワース縣ノ市邑入市稅ヲ行フ諸邑ニ於テハ二百六十九リートルルワール縣ノ市邑入市稅ヲ行フ諸邑ニ於テハ二百六十八リートルニ達セリ其市邑入市稅ヲ行フ諸邑ノ葡萄酒平均ノ消費高巴里ノ平均消費高ニ超ユル者實ニ二十五縣アリ是レ巴里府ノ稅ハ非常ニ重ク他ノ諸縣ハ然ラサルニ由ル若シ巴里ニ於テ市邑入市稅ナケレハ該府ノ消費高ハ方今ノ半ヲ増シ一人ニ付二百五十リートルニ達スヘシ

然ラハ則チ市邑入市稅ハ實ニ非常ニ不平等ノ稅ト云フヘキナリ宜ク他ニ比例ノ當ヲ得タル租稅ヲ求メテ之ニ代ラシメサルヘカラス地租及家賃稅ハ則

チ此職ニ適スル者カ抑モ租税ノ賦課人民ノ財産若クハ歳入ニ比例スルヲ最
 モ近キ者ハ家賃税ニ如クハナシ市邑ニ於テ歳入ノ申告高ニ課スルニ租税ヲ
 以テスルカ如キハ最大ノ不便ヲ免レサルモノトス如何トナレハ歳入税ハ頗
 ル危難ノ者ニシテ市邑ヲシテ之ヲ行ハシムルハ大ニ危険ナルヲ以テナリ
 又市邑入市税ヲ廢止スルカ爲メニハ地租ヲ増加スルモ可ナルヘシ實ニ該税
 ノ廢止ハ市府ノ財産家ヲ利スルヲ大ナリトス如何トナレハ方今此地方消費
 税ノ重キヲ避シカ爲メニ市外ニ移住スル者ハ歸テ市内ニ居ヲトスヘケレハ
 ナリ

余輩ハ市邑入市税ヲ廢スルノ決シテ容易ナラサルヲ知ル諸國ノ諸府殊ニ佛
 國ノ市府ニ於テハ二十五年若クハ三十年以降頗ル巨費ニ苦ミ巨萬ノ負債ヲ
 擔ヘリ幸ニシテ義務ノ爲メニ償還ヲ行ヒ之カ負擔ヲ減スト雖モ後世子孫ニ
 至ルマテ尙ホ頗ル重負ヲ免レサルモアリ故ニ市邑入市税ヲ廢セント欲セ
 ハ大ニ佛國ノ重要ナル直税ヲ増加セサルヘカラス例ヘハ巴黎ニ於テハ千八
 百七十六年四直税ノ高ハ正税副税ヲ合セテ左ノ如シ

地租	二八、四六〇、〇〇〇フランク
門窓税	一〇、四五八、〇〇〇フランク
分頭及動産税	二〇、一〇八、〇〇〇フランク
營業税	四六、八一五、〇〇〇フランク
合計	一〇五、八四三、〇〇〇フランク

初メ之ヲ見ル時ハ改正ヲ行フテ敢テ難カラサル者ノ如シ四直税ノ巴黎府ヨ
 リ徴收セラル、者正税副税ヲ合セテ一億六百萬フランクアリ而シテ市邑入
 市税ノ額ハ一億二千八百萬フランクナルヲ以テ直税ヲ増シテ市邑入市税ヲ
 廢セント欲セハ直税ノ額一倍二割ヲ加フレハ足ルヲ以テナリ然ルニ實際ニ
 於テハ之ヲ行フテ敢テ容易ナリト云ヒ難シ四直税ノ中之ヲ増加スレハ不正
 ト危害トヲ免ル能ハサル者一アリ即チ營業税是ナリ該税ハ已ニ非常ニ重シ
 故ニ營業ニ課スル所ノ租税ヲ以テ消費ニ課スル所ノ者ニ代フルモ只弊ヲ以
 テ弊ニ代フルニ過キサルヘシ營業税ノ外他ノ三種ノ直税收入高ハ巴黎府ニ
 於テ五千九百萬フランクアリ若シ市邑入市税ヲ廢セント欲セハ此三税ニ就

テ凡ソ一億二千八百萬「フランク」ヲ得サルヘカラス之ヲ以テ少ナクモ右三税ノ額ヲ三倍セサルヘカラサルニ至ル現今地租ハ(副税ヲ合セテ)被税者ノ純歳入ノ凡ソ六分ニ當ル如何トナレハ千八百七十六年地租ノ正税副税ノ額二千八百五十萬「フランク」ニシテ同年政府ノ算定ニ據レハ(蓋シ此算定ハ實際ノ價格ニ及ハサル者)巴里府家屋ノ家賃價格ハ四億二千五百萬「フランク」ナルヲ以テナリ然ラハ則チ地租ノ税率ヲ増シテ歳入ノ凡ソ一割八分トナサ、ルヘカラス是レ頗ル重税タルヤ疑ヲ容レサルナリ然レトモ合衆國ノ諸府ニ於テ行フ所ニ比スレハ尙ホ遙ニ輕シト云フヘシ分頭及動産税及門窓税ノ二者ハ余輩ノ合シテ一トナサン「フ」ヲ望ム所ノ者ニシテ住家ノ家賃價格ノ一割餘ニ當ル(製造所工業商業ニ關スル營業所ヲ除ク)此二税モ亦三倍シテ三割トナサ、ルヘカラス抑モ三割ノ家賃税一割八分ノ地租ハ苛刻ノ收斂ト云フヘキカ曰ク然リ是レ甚タ重シト云フヘシ然ト雖モ未タ以テ其重キニ堪ヘ難シト云フヘカラス此ノ如クセハ地方税ノ賦課ハ方今ニ比スレハ一層宜キヲ得ルニ至ラン如何トナレハ市府ノ入市税ヲ廢スル時ハ無數ノ煩則束縛ヲ解キ好曲ヲ

剷除スルヲ以テ商業ノ發達居民ノ衛生ヲ利スル「フ」小ナラサルヘケレハナリニ余輩ハ市邑入市税ヲ廢スルニ專ラ地租ノ増加ニ依ルヲ欲セサルナリ請フ其理由ヲ陳セン元來繁榮ナル市府ニ於テハ家屋ニ係ル地租ハ實際家屋ノ居住者ノ負擔ニ歸スヘシト雖モ(第七篇ヲ見ルヘシ)無智ノ徒ハ此實際ノ負擔ヲ顧ミス又其實際負擔ノ結局ニ至ルマテハ時日ヲ要スルヲ以テ專ラ地租ニ取ル時ハ輿論ヲ代表スル所ノ大都府ノ議員等ハ市邑ノ經費ヲ拂フ者ハ獨リ地主ニアリテ勞力者ハ之ヲ負擔セサル者ナリト考ヘ經費ノ増加ヲ意トセサルニ至ルノ恐レアリ斯ノ如キ思慮ハ誤謬ノ甚キ者ナリト雖モ實際ニ於テハ往々免レサル所ナリ若シ勞力者カ市邑入市税ヲ廢シタルカ爲メニ他ノ被税者ト共ニ増加シタル家賃税ヲ拂ハ、經費ノ増加ハ都テ自己ノ負擔ヲ増加スル者ナルヲ明知シ執事者ヲシテ節儉ヲナサシメン「フ」カムヘシ何レノ國ヲ問ハス租税ノ性質ト參政ノ權利トハ多少ノ關係ヲ有セサルヘカラス納税額ニ依テ投標權ヲ限ル所ノ國ニ於テハ不動産ヲ以テ租税ノ重要ナル基礎トナスモ敢テ大不便ナカルヘシ是レ英國ノ郡市邑及宗邑ニ於テ行フ所ノ者ナリ此場

合ニ於テハ撰擧者ナル地主等ハ經費ヲ節シテ重荷ヲ課セサランコトニ注意ス
 ヘキヤ必セリ之ニ反シテ一般ニ投標權ヲ有スル國ニ於テハ不動産ヲ以テ租
 税ノ重要ナル基礎トナス時ハ浪費ヲ醸シ不正ヲ生スルヲ免レサルヘシ此ノ
 如キ場合ニ於テハ撰擧者ノ多クハ地主ニアラサルヲ以テ其自ラ拂ハサル所
 ノ經費否ナ其自ラ拂フ所ニアラスト信スル所ノ經費ヲ増加スルヲ意トセサ
 ルヘシト雖モ實際ニ於テハ輾轉シテ遂ニ負擔セサルヘカラサルモノナリ由
 是觀之ハ余輩カ消費税財産税ヲ混和シタル如キ一種ノ租税即チ家賃税ヲ以
 テ將來ノ一大要税トナシ市邑入市税ノ代税トナスヘキ者ノ一二列セサルヘ
 カラストナスモ亦宜ナラスヤ

千八百七十七年二月刊行大藏省ノ統計及立法比較官報ニ於テ佛國ノ市邑入
 市税ニ關シテ有益ナル報道ヲ載セタリ余輩ハ之ニ據テ千八百七十六年佛國
 ノ二十三大府ニ於ル表ヲ製出セン

余輩ハ表中第四ノ直税即チ營業税ノ收入額ヲ特掲セスト雖モ該税ノ收入額
 ハ最後ノ段ニ於テ他ノ三直税ノ額ト合セテ掲出セリ

市	府	市邑 收入高	地租 正稅收入高	分頭 正稅及 副稅收入高	門窓稅 正稅收入高	四直稅 營業稅共 收入高
パ	リ	一、二四、二三八、〇〇〇	二八、四六〇、〇〇〇	二〇、一〇八、〇〇〇	一〇、四五八、〇〇〇	一〇、五、八四三、〇〇〇
リ	オ	一、一三、八〇〇	三、一四六、〇〇〇	一、九四八、〇〇〇	一、二七三、〇〇〇	一、三、六八八、〇〇〇
マ	ル	九、七八二、〇〇〇	二、六三八、〇〇〇	二、二八五、〇〇〇	一、一九九、〇〇〇	一、一〇、八四〇、〇〇〇
ボ	ル	四、二六七、〇〇〇	二、〇四九、〇〇〇	一、三四三、〇〇〇	九、一〇〇、〇〇〇	九、〇、五二〇、〇〇〇
リ	ー	三、七二七、〇〇〇	一、〇〇一、〇〇〇	七、七〇〇、〇〇〇	七、六八、〇〇〇	四、八八八、〇〇〇
ナ	ン	二、三〇九、〇〇〇	八、一一〇、〇〇〇	五、七八、〇〇〇	五、二六、〇〇〇	三、六六二、〇〇〇
ト	ー	二、九〇四、〇〇〇	七、八七、〇〇〇	五〇九、〇〇〇	五、八六、〇〇〇	三、二七二、〇〇〇
ル	ー	三、四九九、〇〇〇	一、四三二、〇〇〇	六、八八、〇〇〇	六、一三、〇〇〇	四、七六一、〇〇〇
レ	、	二、四八四、〇〇〇	一、〇八五、〇〇〇	六、〇四、〇〇〇	四、五〇、〇〇〇	五、〇、一五〇、〇〇〇
セ	ー	二、八四七、〇〇〇	五、四七、〇〇〇	三、七三、〇〇〇	三、七七、〇〇〇	二、五九六、〇〇〇
レ	ー	一、〇七、〇〇〇	三、五七、〇〇〇	三、一九、〇〇〇	三、三六、〇〇〇	二、四三三、〇〇〇
ル	ー	一、三五〇、〇〇〇	三、七五、〇〇〇	二、四〇、〇〇〇	二、七六、〇〇〇	二、一三八、〇〇〇

ニ	一、九五、〇〇〇	四六二、〇〇〇	二四二、〇〇〇	二四八、〇〇〇	一、七八五、〇〇〇
ア	一、一〇七、〇〇〇	五八八、〇〇〇	三六二、〇〇〇	二九二、〇〇〇	二、一七三、〇〇〇
ア	一、〇九六、〇〇〇	四六六、〇〇〇	三二六、〇〇〇	三〇八、〇〇〇	一、七六一、〇〇〇
ナ	一、三六三、〇〇〇	二九三、〇〇〇	二六二、〇〇〇	二二七、〇〇〇	一、五五九、〇〇〇
リ	一、一四〇、〇〇〇	二五五、〇〇〇	二二二、〇〇〇	一九〇、〇〇〇	一、三〇六、〇〇〇
ト	一、二六七、〇〇〇	二七二、〇〇〇	三三三、〇〇〇	一五九、〇〇〇	一、三〇九、〇〇〇
ニ	一、二七七、〇〇〇	四四一、〇〇〇	三〇一、〇〇〇	一一一、〇〇〇	一、五九五、〇〇〇
レ	一、一四八、〇〇〇	三三〇、〇〇〇	二二四、〇〇〇	一四五、〇〇〇	一、三三二、〇〇〇
ト	一、〇三三、〇〇〇	三四八、〇〇〇	二二七、〇〇〇	一六四、〇〇〇	一、二〇三、〇〇〇
ヴ	一、一四六、〇〇〇	三七〇、〇〇〇	三二六、〇〇〇	一八五、〇〇〇	一、三三九、〇〇〇
グ	一、〇四九、〇〇〇	二七二、〇〇〇	一四五、〇〇〇	九五、〇〇〇	一、二二九、〇〇〇

表中ノ數ハ皆(フランク)ヲ以テス

右ノ表ニ據テ之ヲ見レハ市邑入市税ノ四直税ノ收入ニ超過スル者ハ巴里及
 セー、エチエンノ二府アルノミ然ルニ已ニ論述セシ如ク商業ニ課スル所ノ
 營業税ハ已ニ甚々重キヲ以テ増加スヘカラス市邑入市税ニ對照スヘキモノ
 ハ地租分頭及動産税門窓税ノ三アルノミ故ニ是等ノ直税ヲ増課シテ市邑入
 市税ヲ廢セント欲セハ巴里ニ於テハ三直税ノ率ヲ三倍セサルヘカラスセ
 ン、エチエンニ於テモ亦少ナクモ之ヲ三倍セサルヘカラスグレノールニ
 スニ於テモ殆ト相同シカルヘシナンシーリモーゾトローンニ於テ市邑入市
 税ヲ廢スルニ三直税ノ率、一倍八割ヲ増加スヘクレームニ於テハ一倍七割五
 分トールース及マルセーユニ於テハ一倍六割リールルベーニ於テハ一倍
 五割トールニ於テハ一倍四割ヴェルサーユ及ルーアンニ於テハ一倍三割ヲ
 増加セサルヘカラス表中他ノ市府ニ於テハ此改正ヲ行フコト一層容易ナルヘ
 シ則チナントニ於テハ三直税一倍二割アーヴル及ニームニ於テハ一倍一割
 五分レームニ於テハ一倍五分ホルドー及アミエンニ於テハ一倍アンゼール
 ニ於テハ九割五分ヲ増スヲ以テ足レリトス

諸大府ノ地租ハ副稅ヲ合セテ不動産借賃價格ノ六分乃至七分動產稅ハ住家
 家賃價格ノ七分乃至八分門窓稅ハ同價格ノ殆ト三分乃至四分ナルヲ以テ見
 レハ市邑入市稅ヲ廢セント欲セハ諸大府多クハ地租ヲ増シテ不動産歲入ノ
 一割五分乃至二割トナシ動產稅ヲ一割八分乃至二割四分トナシ門窓稅ヲ七
 分乃至一割トナサ、ルヘカラス之ヲ約言スレハ諸大府ノ不動産ハ合計歲入
 ノ四割乃至六割ニ當ル租稅ヲ負擔スルニ至ルヘシ此惣額四割乃至六割ノ凡
 ソ一半ヲ以テ不動産ニ課シ他ノ一半ヲ以テ家賃價格ニ課セハ可ナラン
 右ノ如キ稅率ハ實ニ重シ然レトモ必然堪ヘ難キ者ナリト云フヘカラス勿論
 家賃ハ多少騰貴スヘシト雖モ實際ノ生計費ハ却テ減少スヘシ而シテ其徵收
 スル所ノ額ニ異ナルアルニアラス只負擔ノ配當ヲ改正シテ之カ不平均ヲ減
 スルニ過キス夫レ大府ノ修飾ヲ利スルハ各人其貧富ニ應ス然ラハ則チ又貧
 富ノ割合ニ從テ各々之カ費用ヲ辨スルハ豈ニ當然ナラスヤ
 加之ナラス久キヲ經スシテ是等ノ地方直稅ハ多少減少スルニ至ルヘシ元來
 此ニ三十年間諸大府多クハ驕侈ノ事業ヲナス、甚ク眞ニ濫費ト云フヘキモ

ノアリ然ルニ今後五十年ノ間ニ於テハ諸府亦同轍ヲ踏マサルヘク市府ノ修
 飾ヲ全廢セスシテ漸次ニ事業ヲナスニ至ルヘシ假令其豫想ノ如クナラサル
 モ須ラク能ク此ノ如クナルヲカムヘシ抑モ是等ノ諸府ハ皆負債ヲ有セサル
 モノナシ然ルニ其負債タル無期限ニアラス期限毎ニ消却スル所ノ者ナリ是
 ヲ以テ二十年若クハ三十年ヲ過キハ其大部分ヲ償還シ七十五年ニシテ全ク
 之ヲ償還スルニ至ラン其新債ヲ起シテ之ヲ消却スル者ハ蓋シ其一部分ニ過
 キサルヘシ然ラハ則チ市邑入市稅ヲ廢シテ之ニ代フル地租家賃稅ハ二三十
 年ヲ過キハ之ヲ減スルヲ得ヘク假令其年間ヲ經サルモ早已ニ減スルヲ得ル
 ニ至ラン如何トナレハ入市稅ノ關門ヲ除却スル時ハ市府ノ人口ヲ増加シ人
 口ヲ増加スルカ爲メニ不動産ノ賣價歲入ヲ増シ被稅物件ノ増加ニ由リ歲入
 ニ對スル地租ノ割合家賃價格ニ對スル動產稅ノ割合減少スルヲ得ヘケレハ
 ナリ
 余輩カ此ニ稱揚スル所ノ改正ノ效能ハ工商營業ノ抑制ヲ解キ方今市邑入市
 稅ヲ負擔スル、最モ重キ細民ノ負擔ヲ減シ而シテ不動産家賃ノ直稅ヲ以テ

地方費増加ノ感覺ヲ直接ナラシメ市邑廳并ニ選舉人ヲシテ大ニ節儉ヲカメシムルニアリ

已ニ陳述セシ如ク佛國市邑入市税ノ徴收費ハ千八百七十五年ニハ全國ヲ平均シテ八分二七ナリ然ルニ該費ノ割合ハ市府ニ依テ大ニ異同アリ佛國二十大府ノ中該税徴收費ノ最モ小ナル者ヲ巴里五分〇二トナスル―ベ―(六分六〇)リール(七分四九)レン(七分六一)里昂(七分八六)グレノ―ブ―ル(八分五三)ナンシ―(八分八一)アーヴル(八分九四)ニ―ス―(九分三九)セ―ン―エチエン(一割〇分〇七)ニ―ム―(一割〇分一〇)レ―ム―(一割一分一二)リモ―ヂ―(一割一分八九)ト―ロ―ン(一割二分二一)ナント(一割二分四四)ト―ル―ム―(一割三分〇六)ヴェルサ―ユ―(一割四分一七)ル―アン(一割四分四六)マルセ―ル―(一割四分四八)ボルド―(一割六分四九)之ニ次ク右徴收費ノ割合相同シカラサルハ種々ノ原因ニ由ルヘキハ自然ノ理ナレトモ其重要ナル者ヲ二トス則チ市府ノ廣狹税率ノ輕重是ナリ例ヘハボルド―府ノ如キハ市區大ニシテ市邑入市税甚々重カラス而シテ徴收費ハ收入ノ多少ニ拘ハラズ殆ト相同シ之ヲ以テ其收入ニ對スル經費ノ割合

著ルシク多キニ至レリ

白耳義ハ近年能ク市邑入市税ノ廢止ヲ決行セリト雖モ余輩カ前章ニ論スル所ノ代税法ヲ舉行セス其然ル所以ノモノハ種々ノ理由アリシニ由ル就中大ニ直税ヲ増加スル時ハ選舉權ノ制限ニ關スル法律ノ改正ヲナサヘルヘカラサルニ至ルノ事アルニ由レリ(本文ノ理由アリシハ市邑入市税廢止ニ關スル法案ノ説明ニ於テ見ルヲ得ヘシ)

千八百五十八年白耳義市邑入市税ノ純收入ハ千八百七十七萬六千八百八十五フランク其徴收費ハ大約百五十萬フランクナルヲ以テ其惣收入高千二百三十七萬六千八百八十五フランクナリ千八百六十年七月十八日ノ法律ニ於テ市邑入市税ト稱スル間接税ヲ廢シ自今再置スヘカラサル旨ヲ定メ又千八百六十年八月二日ノ法律ヲ以テ右ノ禁止令ニ於テハ假屋店各種市場ノ場所若クハ客車置場ノ税度量權衡等ノ税船着場船渠船積量等ノ税諸掃除ノ税港橋梁堰堤ノ税倉庫税(市邑入市税ヲ課スル物品預置庫ノ税ヲ除キ)麻織物其他ノ商品ニ貼用スル印紙税ノ如キ地方間税ヲ包含セサル者ナリト宣言セリ

市邑入市稅廢止ノ爲メニ減少セル財源ヲ市邑ニ與フルニ白耳義政府ハ全國一般都鄙共ニ此改正ノ利ヲ被ルヘキ制度ニ依ラス中央政府ノ財源ノ一部ヲ割與シ國稅中或ル間稅ヲ增加セリ則チ葡萄酒「ブランデー」ノ内地稅ヲ增加シテ市邑入市稅ノ全國平均額ノ割合ニ均シカラシメ麥酒酢砂糖ノ稅モ亦均ク增加セリ而シテ中央政府ハ郵便ノ事務上ヨリスル各種ノ歲入惣收入高ニ就テ四割咖啡ノ輸入稅收入高ニ於テ七割五分外國產ノ葡萄酒「ブランデー」內國產ノ「ブランデー」及麥酒酢砂糖ノ内地稅收入高ニ於テ三割四分ヲ以テ市邑ニ交付セリ

右ノ如ク中央政府ノ收入ヨリ市邑ニ交付シ市邑基金ト稱スル所ノ歲入ハ前年ニ賦課シタル建築アル不動產ノ地租分頭稅營業稅ノ正稅額ニ割合毎年各市邑ニ配賦スル者ニシテ其一ヶ年ノ配賦高四分ノ一ヲ以テ毎三ヶ月ノ始メニ各市邑庫ニ送付ス而シテ同法律ニ於テ千八百六十一年十二月三十一日マテハ市邑基金ニ交付スヘキ高千五百萬「フランク」ヲ下ルヘカラストセリ實ニ千八百六十一年ニ於テハ該基金ノ歲入千五百二十五萬二千「フランク」ニ達セ

リ即チ市邑入市稅ノ純收入高ヲ超過スル「凡ソ四百五十萬「フランク」ナリ然ルニ此ノ如ク中央政府ノ財源ヲ割テ組成シタル市邑基金ハ只ニ從前市邑入市稅ヲ課シタル諸邑ニ配賦セシニアラス尤モ從前市邑入市稅ヲ課シタル市邑ハ其大部分即チ千五百二十五萬「フランク」中大約千二百萬「フランク」ヲ受タリト雖モ他ノ未タ嘗テ市邑稅ヲ課セサル所ノ者モ亦千八百六十一年ニ於テ三百二十六萬五千「フランク」ヲ得タリ

白耳義ノ改正ハ十八年以降之ヲ實驗シ全ク其功ヲ奏セリ此レ其原案者「フレール、オルバン」氏ノ功ト云フヘキナリ右ノ改正ニ依リ中央政府カ市邑ニ配賦スル所ノ基金ノ額ハ常ニ増加セリ千八百六十八年ノ歲出入豫算ニ據レハ其額千七百十三萬六千「フランク」ニ上レリ之ヲ各種ノ財源ニ分賦スレハ左ノ如シ

- 咖啡輸入稅收入高ノ七割五分 一、八七五、〇〇〇「フランク」
- 「ブランデー」輸入稅收入高ノ三割五分 一、七五〇、〇〇〇「フランク」
- 麥酒酢輸入稅收入高ノ三割五分 六〇〇、〇〇〇「フランク」

葡萄酒内地稅收入高ノ三割五分
 「ブランデー」内地稅收入高ノ三割五分
 麥酒酢内地稅收入高ノ三割五分
 砂糖内地稅收入高ノ三割五分
 郵便事務各種歲入收入高ノ四割一分

合計

一七、一三六、〇〇〇フランク

右ノ數額ハ白耳義ノ市邑入市稅廢止ニ關シ政府ノ公發シタル文書ニ據ル者
 ナリモ一リス、ブロック氏ノ統計年表ニ據レハ中央政府ノ諸財源ヨリ割與シ
 タル市邑基金ノ額ハ千八百七十七年ノ豫算ニ於テ二千四百五十七萬三千九
 百「フランク」ニ上レリ其財源ノ條目ハ左ノ如シ

關稅ノ收入ヨリ 三、四四〇、〇〇〇フランク
 葡萄酒稅ノ收入ヨリ 一、五九二、〇〇〇フランク
 同國產「ブランデー」稅ノ收入ヨリ 八、四〇〇、〇〇〇フランク
 麥酒及酢稅ノ收入ヨリ 五、五八二、〇〇〇フランク

砂糖稅ノ收入ヨリ 一、六八〇、〇〇〇フランク
 郵便稅ノ純收入ヨリ 三、八七八、〇〇〇フランク

合計

二四、五七二、〇〇〇フランク

右ノ表ニ由テ之ヲ見レハ千八百六十年以降市邑基金ノ大ニ増加セシヲ知ル
 ニ足ル然ラハ則チ市邑入市稅ヲ課シタル所ノ市邑ハ不滿ヲ唱フヘキノ理ナ
 シト云フヘシ該國ニ於テ市邑入市稅ヲ廢シタル始メニ方テヤ或ハ市邑入市
 稅ヲ廢セハ財源ノ屈伸力ヲ減スヘシト稱セリト雖モ爾後十七年ニシテ中央
 政府ノ割與シタル歲入ノ額六割ヲ増加シタルヲ以テ之ヲ見レハ又此ノ如キ
 患ナキヤ明カナリ又當初或ハ以爲ラク改正ノ新法ハ葡萄酒稅「ブランデー」稅
 麥酒稅ノ如キ從前ハ一地方ノ租稅タリシモノヲ止メテ一般ノ附加稅トナセ
 シヲ以テ市府ヲ利シテ鄉村ヲ苦シムルモノナリト然ルニ此論モ亦未タ當レ
 リト云フヘカラス如何トナレハ入市ノ妨碍ヲ除去スルヲ以テ農產品ノ消費
 ヲ容易ナラシメ之カ需要ヲ増加スヘク又一ニハ從來市邑入市稅ヲ課セサル
 市邑モ亦中央政府ノ交付スル所ノ市邑基金ノ分配ヲ受ルヲ以テナリ

又或ハ白耳義ノ改正ヲ難シテ從前市邑入市税ヲ課シ爾後其負擔ヲ脱シタル
 物品ノ價大都府ニ於テ下落セサルヘキヲ以テ改正ノ目的ヲ達スルニ足ラサ
 ルヘシト稱スルモノアリ白耳義政府ノ一報告ニ於テ言フ所ヲ見ルニ市邑入
 市税ノ廢止ハ農産品價ノ騰貴ヲ抑制シ生産物ノ品位ヲ改良スルヲ以テ冥々
 中ニ利益ヲ與フルコト少ナカラスト其言當レリト云フヘシ若シ試ニ該國ノ市
 邑入市税廢止ノ前後各々五ヶ月間ノ平均肉價ヲ對照スレハ穀價ニ比準シテ
 四大府ノ中ブルツセルガンリエーゾニ於テハ改正後少シク下落シアンヴェ
 ルニ於テハ却テ騰貴セシヲ見ルヘシ其アンヴェル府ニ於テ騰貴セシ所以ノ
 者ハ只其原因一地方ニ止マルモノニアラサルナキヲ得ンヤ未タ知ルヲ得サ
 ルナリ(國會ノ記録白耳義市邑入市税廢止ノ篇第一卷五百三十六葉ヲ見ルヘ
 シ)

抑モ統計ハ財政改革ノ結果ヲ表出スル能ハサルコト少ナカラス如何トナレハ
 是等ノ改正ハ常ニ即時ニ直接ノ効驗ヲ生スルモノニアラス其影響ハ往々合
 期セス却テ反對ニ出ルコトアルヲ以テナリ故ニ其外形ニ表出スル所ノ如何ニ

拘ハラス白耳義ノ改正ハ同時ニ消費者生産者商業者ヲ利セシヤ疑ヲ容レサ
 ルナリ

白耳義ノ改正ニ就テ難スヘキハ市邑入市税ノ廢止ヲ價フニ中央政府ノ財源
 ヲ以テシ改正ヲシテ完美ナラシムル能ハサルニアリ如何トナレハ有害ノ消
 費税ニ代ルニ他ノ消費税ヲ以テシ其賦課ハ一層良善ナレトモ尙ホ未タ厭フ
 ヘキ者ナルヲ以テナリ爾後中央政府ハ地方費ノ大部分ヲ供給セサルヘカラ
 ス從テ自己ノ財政上前日ト同一ノ自由ヲ有セサルニ至レリ余輩ヲ以テ之ヲ
 見レハ市邑入市税ヲ廢スルニ不動産及家賃ニ地方税ヲ附加シ以テ之ニ代ル
 ノ良キニ如カサルナリ抑モ白耳義政府ノ施行シタルカ如キ改正ハ獨リ政府
 ノ歳入餘リアリ巨額ノ餘贏ヲ割與スルモ妨ナキ者ニシテ之ヲ行フコトヲ得ヘ
 シ然ト雖モ市邑入市税ノ改正ハ重要ナリ其利一般ニ關ス若シ爲スヲ得ヘキ
 時ハ中央政府ハ暫時市邑ヲ補助シテカヲ改正ニ添ルハ決シテ無用ニアラサ
 ルナリ

地方財政法ノ改良ニ最大妨碍タル者ハ地方費ノ非常ニ増加セシコト是ナリ諸

縣邑ノ議會ハ皆爭フテ大土功ヲ起シ以テ自ラ誇ランコトヲ之レ欲ス其間或ハ眞ニ公益ノ事アリト雖モ純然タル虛飾ニ過キサルコト亦少ナカラズ元來此ノ如キ進取ノ銳氣ハ其主義ニ於テハ賞スヘキモノナリト雖モ其弊ヤ往々過大ノ業ニ趨ルノ患アリ方今開明ノ諸國ニ於テ其州縣殊ニ市府ノ公金ヲ濫費セサル者ナシ是レ獨リ佛國ノミナランヤ英國以太利亞米利加合衆國皆均ク然リ白耳義ト雖モ尙ホ免ル能ハス日耳曼モ亦能ク之ヲ搜索討究セハ此弊ヲ免ル能ハサルヤ疑ヲ容レサルナリ佛國ニ於テハ直税ニ附加スル地方副税ノ增加頗ル甚ク千八百三年ニ於テハ其收入僅ニ五千七百萬フランクニシテ千八百六十四年ニハ二億六百二十四萬四千フランク千八百六十九年ニハ二億四千三百萬フランクニ上リ千八百七十七年ノ豫算ニ於テハ大約三億五百萬フランクニ達セリ然ラハ則チ第十九世紀ノ初年以降五倍四割ヲ増加シ千八百六十四年以後四割八分ヲ増加セシモノナリ余輩ハ前章ニ於テ市邑入市税ノ發達ヲ示シ其純收入ハ千八百二十三年ニハ僅ニ四千四百萬フランクニシテ千八百四十三年ニハ六千五百萬フランク千八百六十二年ニハ一億四千百萬

フランクニ上リ千八百七十五年ニハ遂ニ二億千五百萬フランクニ達シ五十二年間ニ市邑入市税ヲ課シタル市邑ノ人口ハ一倍ノ増加ニ至ラサルニ租税ノ收入ハ五倍ノ増加ニ至レルヲ説ケリ是等ノ諸數ニ由テ之ヲ見レハ當世紀ニ於テ佛國ノ縣費市邑費ノ増加實ニ甚キヲ知ルヘシ勿論右ノ經費ヲ以テ數多ノ公益土木道路學校等ニ供シタルモノ少ナカラズト雖モ一方ヨリ之ヲ見レハ此ノ如ク遽ニ地方ノ經費ヲ増加スル時ハ地方財政ノ良法ヲ設ント欲スルモ其能クシ難キヤ亦宜ナラスヤ

抑モ地方費ノ發達ハ獨リ佛國ニ止マルニアラス諸國皆然リトナス已ニ前章ニ陳セシ如クロホルト、デモル氏ノ説ニ據レハ英國(エングランド)ノ地方税ハ三億フランク餘ニ達シ爾後久ク已ニ其額ニ超エタリ白耳義大藏省ノ派遣員フェイスコーヴハンテル、ストラエテンノ二氏ノ研究報告セシ所ニ據レハ千八百六十年ノ際エングランド及ウエールズニ於テ徵收シタル地方直税ノ額ヲ算定シテ千二百五十萬ポンドニ億千二百五十萬フランクナリト稱セリ千八百七十六年ノ統計年表ニ據レハ千八百七十三年度ニ於ル全英國地方直税ノ

徵收高ハ二千四百三十二萬二千「ポンド」凡ソ六億千萬「フランク」ナリ英國地方
 稅ノ増加決シテ小ナラス余輩ハ獨リ輓近ノ景況ヲ示スヲ得ルノミ請フ左ニ
 該稅ノ常ニ發達スルヲ見ン

年度	全英國地方費	直稅收入高	間稅收入高	雜收入
千八百六十七年度	九〇五、〇〇〇、〇〇〇 フランク	四九九、六〇〇、〇〇〇 フランク	一一八、三〇〇、〇〇〇 フランク	二七七、一〇〇、〇〇〇 フランク
千八百七十一年度	九六七、二〇〇、〇〇〇	五四四、六〇〇、〇〇〇	一一六、四〇〇、〇〇〇	三〇六、二〇〇、〇〇〇
千八百七十二年度	一、〇三四、八〇〇、〇〇〇	五七〇、四〇〇、〇〇〇	一一七、三〇〇、〇〇〇	三三七、一〇〇、〇〇〇
千八百七十三年度	一、一四〇、〇〇〇、〇〇〇	六二〇、〇〇〇、〇〇〇	一二五、〇〇〇、〇〇〇	四〇五、〇〇〇、〇〇〇

表中雜收入トハ地方有財產ノ收入政府ノ補助金及公債募集高ヲ云フ
 右ノ如ク英國ノ地方費ハ六年ノ間ニ於テ大約一億三千五百萬「フランク」即チ
 一割五分ヲ増シ地方稅ハ一億八百萬「フランク」即チ凡ソ一割六分ヲ増加セリ
 白耳義ニ於テモ亦同シ已ニ前章ニ陳セシ如ク中央政府ノ財源ヨリ割與スル
 所ノ市邑基金ハ千八百六十一年ヨリ千八百七十七年ニ至ルマテ十七年ノ間
 ニ六割ヲ増シ大府ノ地方稅増加モ亦敢テ之ニ下ラス官府ノ一文書ニ據レハ

該國十大府ノ豫算ニ舉ル租稅ハ市邑基金ヲ以テ代ヘタル市邑入市稅ヲ除キ
 千八百五十四年 七、九七六、六五九「フランク」
 千八百六十年 九、七二四、一〇一「フランク」
 千八百六十六年 一二、三八四、七四八「フランク」
 國會ノ記錄白耳義市邑入市稅廢止ノ篇第一卷七百七十七葉ヲ見ルヘシ
 ○白耳義ノ十大府トハアンヴェルマリーインブルツセルルーヴハインプ
 ルーズグールトレীগンモントル子ーリエーズナリ
 是レ千八百五十四年以後十二年ニシテ五割五分ノ増加ヲ致セシモノナリ
 以太利モ亦地方財政ノ景況ニ於テ欽慕スヘキノ形狀ヲ見ス其諸大府負擔ノ
 甚キ皆佛國ノ市府ニ過ルモノアリ例ヘハフロランスノ如キ其歲計ノ大ナ
 ルヲ割合ニ巴里府ノ歲計ニ過キタリ近年ノ統計ニ據レハ以太利國諸州ノ歲
 計ハ千八百六十二年ニハ僅ニ二千七百萬「フランク」ナリシモ千八百七十四年
 ニ於テハ八千二百萬「フランク」ニ達シ市邑ノ歲計ハ以太利國一統ノ時ニ於テ
 ハ二億二千九百萬「フランク」ナリシモ千八百七十四年ニハ三億七千萬「フランク」

クニ達セリ是レ即チ十四年ニシテ七割ノ増加ヲ致セシ者ナリ以太利諸大府ノ負擔ハ實ニ重シ請フ其千八百七十四年ニ於ル八大府ノ經費ヲ示サン

市府

人口

經費

フロランス	一六八、七三一	二三、七一二、〇〇〇	フランク
ナール	四四七、七二七	一六、五六五、六七八	フランク
ローマ	二三九、〇一三	一五、一九五、九五五	フランク
ゼーナ	一六一、六〇九	一二、七六四、三三四	フランク
ミラン	二六〇、二五三	一一、六六七、〇一九	フランク
チューリン	二一三、〇五四	九、八八四、六二六	フランク
パラルム	二二四、四一八	五、八一六、〇一九	フランク
ヴェニス	一二六、九四一	四、三〇四、六二四	フランク

右諸府ノ中フロランス府ノ負擔殊ニ重シ蓋シ歐洲ノ諸府中租税ノ負擔最モ重キ者ナルヘシ其居民一人ニ當ル税額ノ割合ハ巴里府ト殆ト異同ナシト雖モ其富ニ至テハ遙ニ巴里ニ及ハス抑モ是等以太利ノ市邑ハ皆市邑入市税

アリ而シテ該税ノ收入ヲ專ニスルヲ得サルヲ以テ苦情ヲ唱フヘキノ理由甚タ大ナリトス千八百七十四年市邑入市税ノ收入高ハ一億三千六百萬フランクニシテ市邑費ニ供スルヲ得ル者ハ僅ニ七千九百萬フランクニ過キス餘ノ五千七百萬フランクハ皆中央政府ニ收入スル者ナリ

據テ舉ルモノナリ

本書ノ第一版ニ於テ以太利ノ諸府ニ關スル右ノ事實ヲ記載シタルニ爾後ブタベストノ統計局長ヂョーセフ、ケレシー氏ハ萬國統計會議ノ後諸大府ノ財政ニ關シ有益ナル一書ヲ世ニ公ニセリ此匈牙利統計家ノ拾集セシ所ノ者ニ由テ之ヲ見レハ十二年以降歐洲諸大府ノ經費ハ殆ト皆一倍ノ増加ヲナセリ巴里府ノ歲計ハ此十年間ニ一億五千萬フランクヨリ二億二千五百萬フランクニ上リシヲ以テ僅ニ五割ヲ増加セシニ過キスト雖モ該府ハ已ニ千八百六十六年ニ於テ濫費ノ景況アリ千八百六十九年ヨリ千八百七十五年マテニ伯林府ノ通常歲計ハ千八百萬フランクヨリ三千六百萬フランクニ上リ維也納

府ノ通常歳計ハ千八百六十五年ヨリ千八百七十四年マテニ千六百五十萬フランクヨリ三千百萬フランクニ上リスチユツトガルトノ歳計ハ同時代ニ於テ三倍シブレスラウノ歳計ハ殆ト二倍シ千八百六十六年以後フローランス府ノ経費ハ三倍ヲ増加セリ此十年以來該府ノ歳出入皆大ニ相償ハサルハ吾人ノ知ル所ナリコーペンハーグニ於テハ千八百六十五年以後經常非常ノ二經費共ニ殆ト一倍ノ増加ニ至レリ

ケレシ―氏ノ報道ニ基キ余輩ハ左ノ一表ヲ製セリ是レ其有益ナルカ爲メナリ

歐洲諸大府ノ居民一人ニ當ル市邑通常費ノ割合

- 第一 巴里 一〇五フランク
- 第二 フローランス 九〇フランク
- 第三 羅馬 五八フランク
- 第四 維也納 四六フランク
- 第五 チューリン 四三フランク

第六 スチットガルト 四〇フランク

第七 伯林 三六フランク

第八 ブレスラウ 三六フランク

第九 コーペンハーグ 三五フランク 五十サンチム

第十 ゼーナ 三一フランク

第十一 ミューニツク 二七フランク

亞米利加合衆國ノ地方財政モ亦決シテ節儉ノ實アルヲ見ス該國ノ銀行雜誌(千八百七十六年九月刊行ノ分)ニ於テ市邑ノ負債發達ノ景況ヲ舉ルヲ見ル請フ余輩ハ其表ヲ掲出シテ該國大府ノ負債并ニ被稅財產ノ高ニ對スル負債ノ割合ヲ示サン

市 府	被稅價格財產	負債元金	被稅物ニ對スル負債ノ割合	人口一人ニ當ル負債ノ高	被稅資本一千弗ニ對スル市邑稅ノ割合
ニューヨーク	一、一〇〇、九四三、七〇〇	一一六、七七三、七二四	一割〇分六〇	一一六、〇〇	二九、二五
バフハロー	三九、九六八、一〇五	七、二六四、二九一	一割八分六二	六〇、五〇	三五、五五

トレド	一九七九八、五八〇	三、五五六、七五四	一割七分九〇	一一、一〇	四四、四〇
ブルークリン	二二五、一七六、七五五	三五、〇三一、二六三	一割五分五五	八八、〇〇	三四、一〇
セーントルイ	一六〇、二五、七〇〇	一七、三四五、〇〇〇	一割〇分七七	五五、五〇	二〇〇〇
ホルチモール	二二一、五〇三、一二九	二四、三二五、四二七	一割〇分五〇	九〇、〇〇	一八〇〇
シンシンナチー	一八四、四九八、五八五	一九、三三四、〇〇〇	一割〇分四二	九二、〇〇	二八八二
フィラデルフイヤ	五九五、四一三、四七八	五九、六八六、二二三	一割〇分〇〇	八八、〇〇	二一、五〇
シカゴ	三〇三、七〇五、一四〇	二四、三三三、一七六	八分〇〇	六一、一〇	一八〇〇
ホuston	七九三、七六七、九〇〇	二七、〇八二、七七八	三分五八	八二、〇〇	一一、六六
サンフランシスコ	二六四、二二九、四四四	三、四四一、〇〇〇	一分三二	二二、九〇	二一、〇〇

右十一府ノ負債元金ノ額ハ凡ソ十七億、フランクニ達ス今巴里ノ負債高二十億、フランクヲ超ルヲ以テ之ヲ見レハ右ノ額ハ蓋シ巨大ナルニアラスト雖モ亞米利加ノ市府ニ於テ借ル所ノ負債ノ利子ハ遙ニ我巴里府ニ於テ借ル所ノ者ヨリ高シ且ツバフハローノ府ノ如キ負債高ノ被稅財產高ニ對スル割合一割

八分以上ナルヲ以テ之ヲ見レハ其負擔實ニ大ナリト云フヘシ加之ナラス其殊ニ患トナスヘキハ該負債ノ増加頗ル急ナルニアリ全雜誌ニ據レハ紐育府カ始テ負債ヲ起シタルハ實ニ千八百十二年六月八日ニアリ爾後該府公債ノ逐次増加シタル者左ノ如シ

年代	負債元金	被稅資本ニ對スル負債ノ割合
千八百三十年	七七四、五五六弗	〇分六二
千八百四十年	一〇、七七五、三八六弗	四分二五
千八百五十年	一二、二〇五、一七六弗	四分二六
千八百六十年	一八、九〇一、四四〇弗	三分二一
千八百六十五年	三五、九七三、五九七弗	五分九一
千八百六十九年	四七、七九一、八四〇弗	四分九五
千八百七十年	七三、三七三、五五二弗	七分〇五
千八百七十二年	九五、五八二、一五三弗	八分六〇
千八百七十三年	一〇六、三六三、四七一弗	九分四〇

千八百七十四年 一一五、一八七、九六九弗 九分九七
千八百七十五年 一一六、七七三、七二四弗 一割〇分六〇

紐育府公債ノ大ニ増加シタルハ實ニ千八百六十九年以降ニシテ最後ノ四五
年間該府ノ政額敗シ奸官汚吏盛ニ公金ヲ私セシハ吾人ノ知ル所ナリ是等ノ
非常ナル實蹟ノ有無ニ關セス右ノ表ニ由テ此五十年以降殊ニ二十五年以降
各國ノ市邑ハ皆巨大ノ經費ヲ要シ爲メニ良善ナル地方財政ノ法ヲ立ルヲ妨
ル所以ヲ見ルニ足ラン

余輩ハ此篇ヲ終ルニ方リ我巴里府ノ狀ヲ略述セン千八百十三年ニ巴里ノ人
口ハ六十二萬二千人ニシテ經常豫算ノ額二千三百萬フランク其府民一人ノ
負擔ニ當ル者三十七フランクナリ王政復古政府ノ時ニ方テハ其豫算高三千
二百萬フランクニシテ七十一萬三千ノ人口ヲ有セリ即チ一人ニ付四十五フ
ランクニ當ル者ナリ而シテ千八百五十年ニ至ルマテ其比例異同ナク同年ノ
歲計ニ於テハ該府經費ノ割合居民一人ニ付四十四フランクニ當リ千八百六
十九年ニ於テハ該府ノ人口百八十萬歲計ノ額一億六千八百萬フランクニシ

テ居民一人ニ付九十五フランクニ當リ千八百七十九年ニハ經費ノ額二億二
千二百萬フランクトナリ居民一人ノ負擔百十フランクトナレリ然ラハ則チ
千八百十三年以降該府人口ハ凡ソ三倍ノ増加ニシテ歲計ノ増加ハ殆ト十倍
ニ達セシ者ナリ

巴里府ノ收入ハ四箇ノ財源ヨリ得ル者トス

第一 府有財産ノ收入該府ニ於テ特占ヲ許シタル營業ノ賦金及租稅ノ性
質ヲ有セサル納金

第二 間稅

第三 直稅

第四 中央政府ノ補助金等

第一項收入ノ緊要ナルハ余輩已ニ前篇ニ說ケリ今千八百七十九年ノ豫算案
ニ叙述スル所ヲ見ルニ左ノ諸目ヲ含有ス

貸附金利子、罰金及獵免許收入 五六〇五、七〇〇フランク
市邑不動産ノ收入 一、二八九、一六八フランク

學校收入遺物及寄附金	二、五二〇、二〇〇フランク
市場收入	六、九四五、九〇〇フランク
屠場收入	二、九五〇、〇〇〇フランク
度量權衡收入	三四四、〇〇〇フランク
公証交付料及動產賣拂代	二五八、〇〇〇フランク
倉庫料	二、一〇〇、〇〇〇フランク
葬式稅	八五七、一四五フランク
埋葬地賣拂代	一、七二一、七〇〇フランク
公道貸賃	九〇四、八一五フランク
塵溜場料	六〇〇、〇〇〇フランク
諸事業及點火ノ爲ニスル人民寄附金	五、九九一、五九五フランク
瓦斯會社ノ上納金	八、五〇〇、〇〇〇フランク
用水會社ノ上納金	九、八八六、六五七フランク
塵溜糞除下水	一、五九三、五〇〇フランク

物品及土地賣拂代

諸收入

合計

二〇〇、六〇〇フランク
一、一四一、二六七フランク
五三、四一〇、二四七フランク

表中第一項獵免許ノ收入ニ附加スル所ノ他ノ諸收入アレトモ今之ヲ區分スル能ハス第四項市場收入中純然タル租稅ヲ含有スト雖モ其最大部分ハ場所及客車置場稅ノ收入トナス

右五千三百萬フランク中財産ノ收入否ナ府廳ノ盡シタル職務ニ對スル手數料ノ性質ヲ有スル者最モ多シ此種ノ收入ハ他日頗ル發達スヘシ殊ニ瓦斯會社用水會社ニ允可シタル期限滿ル時ハ其收入大ニ増加スヘシ

第二項ノ收入即チ間稅ハ左ノ財源ヲ以テ成ル

市邑入市稅

一二六、七〇三、一〇〇フランク

客馬車稅

四三三、〇五〇〇フランク

合計

一三一、〇三三、六〇〇フランク

第三項即チ直稅ノ收入ハ左ノ財源ヲ以テ成ル

市邑副稅特別稅犬稅

二四、五七六、六〇〇フランク

掃除稅

二六〇〇、〇〇〇フランク

合計

二七、一七六、六〇〇フランク

末項ノ中央政府補助金ハ左ノ二目ヲ以テ成ル

巴里鋪石ノ維持費又ハ改良費へ中央政府及縣交付金

三、四〇〇、〇〇〇フランク

警察費へ中央政府ノ交付金

七、六九三、〇〇〇フランク

合計

一一、〇九三、〇〇〇フランク

右ニ歴叙スル所ニ由テ之ヲ見レハ千八百七十九年ノ豫算ニ於テ市邑入市稅ノ收入高ハ一億二千六百萬フランクニシテ歲計ノ總額二億二千二百萬フランクニ對スレハ其半額以上ハ供給ヲ該稅ノ收入ニ仰ク者ト云フヘキナリ其事業ノ公益タルト驕奢タルトヲ問ハス將來縣邑ノ經費ハ從來ノ如ク多カラサルヲ望ムコトヲ得ヘキカ如何トナレハ道路ヲ善美ニシ建築ヲ強固ニシ粧飾ヲ美麗ニスル等ノ大土木ヲ要スルコト今後ハ往日ノ如ク急ナラサルヘ

ケレハナリ若シ果シテ此ノ如クナラハ市邑ノ負擔漸ク減シ巨額ノ新債起ラズ市府ノ繁榮益盛ナルヘク府民ノ負擔大ニ輕減スルヲ得ヘシ一方ニハ府有財產ノ收入水瓦斯等ノ營業允可ノ爲メニ收入スル者ハ大ニ増加セン然ラハ則チ余輩ノ子孫ニ至ラハ市邑費大ニ減シ地方稅著シク輕減スルノ日アルヲ期スヘキナリ實ニ當世紀ニ於テ起工セシ公益ノ大業多シ後世子孫坐ラ其所用ヲ恣ニスルノ惠ヲ受ルニ至ラン抑モ諸國ノ地方皆財政ノ處理宜キヲ失ヒ放逸濫費ノ弊盛ニ起ルキハ中央政府ヲシテ地方行政ノ監督制御ヲ嚴ニスルノ要ヲ覺ヘシムヘキナリ英國ニ於テハ佛國ト均ク地方ニ於テ公債ヲ起スノ權ヲ制限セリ合衆國ノ諸州ニ於テモ憲法ヲ以テ同一ノ制限ヲナス者少ナカラス諸大府ノ無謀濫費ハ已ニ甚シ然レトモ歐洲諸大國政府ノ無謀濫費ニ至テハ方今ニ至ルマテ未タ其比ヲ見サルナリト云フモ敢テ不可ナカルヘシ
余カ著書佛國及英國地方政治并ニ千八百七十八年一月及五月刊行大藏省出版統計及立法比較官報ヲ見ルヘシ

第十六篇

租稅輕減 稅率ノ效驗 收入増加 租稅ノ負擔轉ノ顯象 諸級人民

租稅ノ負擔 第一卷結論

已ニ前篇ニ於テ開明諸國ニ行ハル、各種ノ租稅ヲ論シ其得失及實際ノ負擔ヲ研究セリ今ヤ本書第一卷ヲ結フニ當リ余輩ハ只諸篇ノ意ヲ通論約說セント欲ス

學理上ニ於テ最モ得ル所アルノ一點ハ巨額ノ負債ヲ有シ又巨萬ノ軍隊ヲ維持セント欲スル國ニシテ數種ノ租稅ヲ課セサルヘカラサル場合ニ於テハ複稅ヲ行フハ止ヲ得サル者アリト雖モ其極端ニ走テ無數ノ租稅ヲ課スルヲナキヲ要スト云フニアリ殊ニ間稅ノ如キハ大ニ生産ヲ妨ケス甚キ不公正ヲ行ハス細民ニ課スルヲ重キニ過ルナクシテ稅スルヲ得ヘキ少數ノ物品ヲ撰フヲ要ス其負擔少シク重キモ少數ノ物品ニ課スルハ輕フシテ夥多ノ物品ニ課スルニ勝ルモノトス佛國ノ如キハ少シク租稅ヲ重課スルモ妨ケナキ者ヲ砂

糖咖啡煙草ノ諸品トナス其紙稅蠟燭及「ステアリン」稅石鹼稅葡萄酒稅「シコレ」稅ヲ行フニ當テ大ニ是等諸品ノ租稅ヲ輕減スルハ不可ナリ
抑モ一國ノ歲入餘アリテ人民負擔ノ一部ヲ輕減セント欲スル時ハ單ニ一ノ租稅ヲ全廢スヘキカ若クハ諸種ノ租稅ヲ減少スヘキカノ論題ヲ生スヘシ通例政府及議院ハ第二段ノ議即チ諸種ノ租稅減少說ヲ行フノ傾キアルモノトス如何トナレハ種々ノ利益ニ關シ甲ニ利セントスレハ乙ノ利トナラス其利益相撞着スルカ爲メニ遂ニ成ルヘク廣ク利益ヲ及ホサント欲スルニ至レハナリ是レ政治上ニ於テハ良手段ナルヘキモ財政上經濟上ニ於テハ決シテ良策ニアラサルナリ之ヲ實地ニ徵スルニ僅ニ租稅ヲ減スルハ被稅者ノ利タルヲ甚タ小ナリトヌ此ノ如クナレハ物品ノ小賣價ハ租稅減少ノ割合ニ減スルモノニアラス中間ニアリテ媒介ヲナス者獨リ其利ヲ專ニスヘシ例ヘハ砂糖稅一「キログラム」ニ付一二「ス」ヲ減シ咖啡稅一「キログラム」ニ付四「ス」若クハ五「ス」ヲ減スル時ハ消費者殊ニ小量ヲ買フ者ハ小利益ヲ受ケサルニアラサルヘシト雖モ物價ノ下落小ニシテ國民ノ多數ニ於テ其下落ヲ感シ該物品ノ

消費ヲ増加スル程ノ功能ナキヲ以テ僅々タルノ稅額ノ減少ハ大ニ物品ノ消費ヲ發達スルニ足ラサルナリ
試ニ今茲ニ某政府ニ於テ歲入ノ超過額一億「フランク」ヲ有シ之ヲ以テ租稅ヲ輕減セント欲スル「ア」リトセン余輩ヲ以テ之ヲ見ルニ此ノ如キ場合ニ於テ政府ハ同時ニ八種若クハ十種ノ租稅例ヘハ記錄稅郵便稅砂糖稅咖啡稅葡萄酒稅ニ就テ各々徴々タル減少ヲ行フヤ必セリ此ノ如キ優柔ナル措置ハ利スル所甚タ小ナリ寧ロ其歲入超過額ヲ以テ專ラ一二ノ用ニ供シ例ヘハ大ニ郵便稅ヲ減シ其收入五分ノ二若クハ三ヲ損シ又記錄稅中其重キ不動産ノ讓渡ニ課スルカ如キモノヲ減スルノ好キニ如カス若シ果斷勇決此二者ヲ行ハ、其國民ヲ利スル「コ」十數種ノ租稅ニ就テ小減少ヲ行フヨリ遙ニ大ナルヘシ凡ソ逐次改正ヲ行フニ當テハ其枉クヘキヲ枉ケ屈スヘキヲ屈スルヲ知ラサルヘカラス英決斷行實功ヲ收メ改正ヲシテ完全ナラシムルヲカメサルヘカラス一時ニ百事ヲ創メ夥多ノ關係人ニ各々些少ノ手附金ヲ與ヘ誰アリテ大ニ利ヲ得ル者ナク又ハ明カニ利ヲ被ル者ナキハ是レ政治界ノ吝嗇ト云フヘキ

然ルニ政府カ巨大ノ經費ヲ要スルニ當リ巨額ノ收入ヲ得ルニ足ル所ノ租税ニ至テハ此ニ異ナリ若シ普通諸國ニ行ハル、所ノ租税ニシテ敢テ大不便ナク又一旦其組織ヲ廢スル時ハ忽然急ニ之ヲ再設スル能ハサル如キ者ハ假令政府ノ財政寛裕ニシテ之ヲ廢スルヲ難ンセサル時ト雖モ決シテ之ヲ全廢スヘカラス如何トナレハ今日ハ財源ヲ要スル所ナキモ明日ハ又必需ノ財源トナルヘキコトアルヲ以テナリ例ヘハ現今英國ノ如キハ歲入税ヲ廢スルコト難キニアラス故ニ英國ノ被税者ニ黨スル者ハ數々政府ヲシテ之ヲ廢セシメンコトヲ謀レリ然ルニ余輩ヲ以テ之ヲ見ルニ其策ノ採用セラレサルヘキ理由ニアリ

第一 歲入税ハ已ニ前篇ニ於テ証明シタル如ク正當ノ租税ナルコト

第二 歲入税ハ英國ノ財政上ニ於テ緊要ナル機關タルコト(是レ即今大ニ余輩ヲ感悟セシムル一點タリ)如何トナレハ該税ハ急危ノ時ニ當リテ最大ノ收入ヲ得ヘキ所ノ一税ナルヲ以テナリ

千八百七十六年度ニ於テ英國ノ歲入税ハ一「ポンド」ニ付三「ペン」ヌ即チ百「フラン」クニ付一「フラン」クニ二三「サンチム」ノ割合ニシテ其收入僅ニ一億三千二百萬「フラン」クニ過キス然ルニ一朝事アルニ方リ政府カ巨大ノ經費ヲ要スル時ハ税率ヲ増シテ百「フラン」クニ付五「フラン」クノ割合トナシ以テ五六億「フラン」クノ收入ヲ得ルハ難キニアラス此一事ヲ以テモ一國歲入ノ要項タル租税ヲ廢スヘキモノニアラス財政ノ緩裕ナル時ニ於テハ只宜ク其税率ヲ減シテ最低點トナスニ止ルヘシ實ニ國民カ久ク慣ル、所ノ租税ヲ倍シ又ハ之ヲ三倍スルハ新ニ一税ヲ設置スルヨリ遙ニ容易ナル者ナレハナリ

某消費ニ課スル所ノ租税殊ニ工業者商業者若クハ消費者ヲシテ種々ノ煩則ニ服セシメ無數ノ困難ヲ被ラシメ漫ニ時間ヲ失ハシムルニアラサレハ徵收スル能ハサル者ノ如キハ前陳ノ理由ヲ以テ推スヘカラス實ニ消費税ニ至テハ改正ノ實功ヲ收メント欲セハ大ニ税率ヲ減セサルヘカラスルノミナラス時トシテハ之ヲ全廢セサルヘカラサルコト少ナカラス就中石鹼税「ステアリン」税紙税ニ於テ然トナス葡萄酒税ニ於ルモ亦然リ是等諸税ノ場合ニ於テハ政

府ニ納ル所ノ稅額カ獨リ被稅者ノ負荷トナルニ止ラス營業ノ進歩ヲ害シ製造賣買ノ自由ヲ妨ルヲ少ナカラサル者トス然ラハ則チ政府ノ歲入餘リアリ之ヲ以テ租稅ノ改正ニ供セント欲スル時ハ勇決斷行完全ノ結果ヲ求ムヘシ若シ租稅ノ全廢ヲ行ヒ得ヘクハ須ラク之ヲ行フヘシ假令將來事アルニ當テハ少シク國庫ノ補助トナルヲ得ヘシト雖モ營業ノ費用ヲ増大ニシ營業ヲ妨害スルヲ甚キ所ノ租稅ニ至テハ之カ爲メニ永遠ニ繼續スヘキ理由トナスニ足ラサルナリ

眞ニ被稅者ヲシテ租稅輕減ノ利ヲ被ムラシメント欲セハ其輕減ヲ大ニセサルヘカラス否ラサレハ國庫ノ收入ヲ減スルニ止リテ被稅者ノ利益トナルヲ得ヌ嘗テ巴里府ノ市邑入市稅ニ於テ生シタルモノハ之ヲ証スルノ好例ト云フヘシ千八百三十年十二月二十八日ニ於テ巴里府ハ飲料品ノ入市稅ヲ減シテ恩惠ヲ府民ニ施サントセリ然ルニ遂ニ其價ハ下落セス消費ハ増加セス只獨リ小賣商カ其恩惠ヲ蒙レリ是レ其輕減ノ小ナリシニ由ル而シテ又一ニハ時ノ騷亂ニ會セシニ由ルト云フヘシ

斯ノ如ク租稅輕減ノ効驗ハ即時ニ見ルヲ得ヌ又ハ僅ニ租稅ヲ輕減シタル商品ノ價ニ影響スルヲアリ即チ前篇ニ陳述シタル白耳義ノ市邑入市稅廢止ノ後ニ於ルカ如キ是ナリ千八百四十八年四月十八日假政府ノ時巴里府ノ市邑入市稅ニ於テ肉ニ課スル所ノ者ヲ廢セリ然レトモ久シカラヌシテ再ヒ之ヲ復セリ此肉稅停止ノ暫時間ニ於テ富民ノ居住スル部分ハ其價下落セリト雖モ細民ノ間ニテハ肉價ノ變動ヲ見サリシヲ以テ從前該稅ヨリ巴里府ノ庫中ニ收入セシ所ノ者ハ廢稅後中間者ノ利スル所トナリテ租稅ノ輕減ハ假令大ナリト雖モ消費者ノ利トナラサル者ナリト稱スル者アリト雖モ此ノ如ク斷言スルハ頗ル輕率ノ論理タルヲ免レス抑モ千八百四十八年肉稅廢止ノ時問ハ短キニ過キ其當時ニ現ハレタル事實ハ眞理ヲ証明スルニ足ラス且ツ其時代ハ騷擾ノ時ニシテ規則ノ立チタル取引ヲ行フニ能ハヌ又商賈ノ費用ヲ減スルニ足ラサリシヲ以テナリ

千八百四十八年市邑入市稅ヲ減シタルニ拘ラス肉價ハ下落セシ程ノナカリシ所以ヲ示スニ足ルヘキ一ノ事實ハ當時紛擾ノ際屠者ハ容易ク殘餘

ヲ工業者ノ使用ニ賣ルコ能ハサリシト云フコ是ナリ且ツ當時肉ノ價ハ富
民ノ間ニ於テ下落シ細民ノ間ニ於テ動カサリシト云フヲ以テ之ヲ見レハ
蓋シ細民ニハ掛賣ヲナシタルニ由ルヘシ

加之ナラス白耳義ノ市邑入市税ニ於テ見ルカ如ク租税輕減ノ效驗ハ互ニ物
價ヲ下落セスシテ其騰貴ヲ緩メ物品ヲ改良シ奸策ヲ止ムルニ至ルコアルヘ
シ又時トシテハ一物品ノ租税ヲ減シタルカ爲メニ租税ノ變動ナキ他ノ物品
ノ消費ヲ増加スルコアリ例ヘハ今大ニ咖啡ノ税ヲ減スル時ハ砂糖ノ消費ヲ
増加スヘキカ如キ是ナリ

試ニ今新ニ佛國ニ於テ書翰ノ税二十五サンチムナルヲ減シテ二十サンチ
ムトセン然ル時ハ其利益タルヤ疑ヲ容レス而シテ此時ニ於テハ消費者ト
國庫ノ間ニ介立スル者ナキヲ以テ其利益ヲ受クヘキ者ハ消費者ニアルヘシ
然ルニ其減少ハ小ニ過キ公衆ノ習俗ヲ變シテ大ニ通信ノ發達ヲ來タスニ足
ラサルヤモ計リ難シ然ルニ之ニ反シテ該税ヲ減スルコ二十五サンチムヨ
リ十五サンチムニ至ラハ書翰往復ノ習俗ヲ變更シ將來盛ニ通信ヲナサハ

ル人民カ書翰往復ヲナスニ至リ通信ノ發達ヲ見ルヘキナリ
世ニ租税ノ増減ヲ以テ物品ノ消費及租税ノ收入上ニ於ル效驗ヲ論スル者多
シ或ル淺慮ナル經濟家ハ漫ニ臆斷ノ格言無慮ノ論理ヲ唱ヘ諸家ノ駁撃ヲ受
ケ或ハ無識ノ實務論者ノ嘲笑ヲモ免レサル者アリ本書ノ前諸篇ヲ熟讀玩味
セシ者ハ此緊要ナル論題ニ於テ自ラ悟ル所アラシ

元來一切ノ租税ニ於テ最大ノ收入ヲ得ヘキ税率アリテ之ヲ超ユルモ又之ニ
及ハサルモ國庫ノ收入ヲ減スヘキ者トス若シ右ノ税率ヲ過クレハ奸詐密賣
ヲナスカ若クハ消費ヲ減少シ其收入從テ減スヘク之ニ反シテ若シ其税率右
ニ及ハサレハ消費ヲ發達スルモ充分ノ收入ヲ得ルニ足ラス然ルニ其最大ノ
收入ヲ得ヘキ税率如何ヲ發見スルハ單ニ實驗ニアリ敏捷ナル者ハ各々其場
合ニ就テ洞察シ殆ト右ノ點ニ近キ者ヲ覺知スルヲ得ヘシト雖モ學理上ニ於
テハ只一般ニ嚮導トナルヘキ者ヲ示スヲ得ルノミ賢明ナル立法者ハ收入ノ
最大點ヲ求ント欲シテ之ヲ超過スルノ危險ヲ侵サンヨリ寧ロ其以下ニ止ラ
ンコヲ欲スル者ナリ合衆國ニ於テ數々實行シタル如ク若シ其點ヲ超過スル

時ハ只ニ直接ニ國庫ノ收入ヲ減スルノミナラス間接ニ商業工業及消費者ニ
 損失ヲ來タシ其不幸實ニ小ナラス
 世ニ或ハ租税ノ收入ヲシテ最大ナラシムル方法ハ税率ヲ減スルニアリトノ
 虛妄ナル格言ヲ以テ經濟家ノ唱ル所ナリト考ル者アリ淺見論者ニアラサレ
 ハ此ノ如キ語ヲ著載スル者アラサルヘシ抑モ租税ヲ輕減スル時ハ(假令一般
 ニ否ラサルモ)收入ノ最大ナル税率ヲ超過セサル時ニ於テ(即時ニ國庫ノ收入
 ヲ増加スルモノニアラス)租税輕減ノ初年ヨリシテ大ニ消費ノ發達ハ急ナル
 者ニアラス通例ハ數年ヲ要シ時トシテハ減稅後三四年ニシテ減稅以前ノ收
 入額ニ復シ時トシテハ十五年二十年若クハ二十五年ヲ經サレハ從前ノ收入
 額ニ復スル能ハサルコアリ
 一方ニハ又税率ヲ増加スル時ハ稀レニ立法官カ短慮ニシテ非常ノ税率ヲ施
 シタル場合ノ外ハ直ニ租税ノ收入ヲ増加スヘシ然ルニ久キヲ經レハ其増加
 ハ往々實際ノ増加ニアラスシテ外見ノ増加ニ歸スル者少ナカラヌ如何トナ
 レハ税率増加ノ爲メニ急ニ消費ヲ減セスト雖モ輕稅ノ時ニ於ルカ如ク消費

ノ發達速カナルヲ得サレハナリ例ヘハ前篇ニ陳セシ如ク佛普戰争後佛國ニ
 於テ郵便稅ヲ増シテ二十「サンチトム」ヨリ二十五「サンチトム」トナシ當初ニ於
 テハ收入ノ増加税率ノ増加ト相應セリ然ルニ毎年ノ收入増加ノ割合ヲ減シ
 タルヲ以テ國庫ノ收入ニ至テハ管見論者ノ考ルカ如ク實際得ル所ノ大ナラ
 サルヤ疑ヲ容レサルナリ
 右ノ顯象ヲ解スルハ敢テ難キニアラス元來消費ニ課スル租税ノ増減ハ多少
 人民ノ習俗ヲ變動スル效驗ヲ有スルモノトス是レ租税ヲ輕減スレハ消費ヲ
 増加シ租税ヲ増加スレハ消費ヲ抑制スルヲ以テナリ然ルニ人民ノ習俗ハ瞬
 時ニ變更スルモノニアラス必スヤ多少ノ時日ヲ要スルモノナリ故ニ今砂糖
 税一「キログラム」ニ付十五若クハ二十「サンチトム」ヲ増加スルモ其初メハ砂糖
 ノ賣高毫モ減少スルコトナカルヘシ然レトモ人民ノ或ル者ハ漸次ニ少量ノ消
 費ヲ減スルカ又ハ從前ノ如ク消費スルニ止リテ毎年消費ノ増加ヲ減スルニ
 至ルヘシ税率減少ノ場合ハ其事實之ニ反シ突然其消費ヲ増加セサルモ毎年
 消費發達ノ進歩一層速カナルニ至ラン

稅率ノ輕減カ物品ノ消費ト租稅ノ收入ニ如何ナル影響ヲ來スヘキヤヲ豫知セント欲セハ新稅ヲ以テ舊稅ニ比較スルヲ以テ足レリトセス尙ホ新稅ヲ以テ商品ノ小賣價ニ比較セサルヘカラス租稅ノ減少ハ大ナルモ商品ノ小賣價ニ對シテハ僅ニ小部分ナルヲアルヘシ然ル時ハ租稅輕減ノ影響ハ甚々大ナラサルヘキヤ明カナリ例ヘハ若シ此ニ五十「サンチーム」ノ價格ナル商品ニ十「サンチーム」ノ租稅ヲ課スル者アリ今其稅ヲ減シテ五「サンチーム」トセハ五割ノ減少ナルヲ以テ其輕減ハ甚々大ナルモ消費ノ發達ニハ影響ヲ生スルヲナカラン右ノ如キ場合ニ於テハ租稅ノ増加モ消費者ヲシテ之ヲ覺ヘシメサルヘシ之ニ反シテ若シ舊稅ノ率ハ商品ノ價格ニ均キカ若クハ之ニ超過シタルニ今其半ヲ減スルカ又ハ増加スル時ハ大ニ其賣價ニ影響ヲ來タシ從テ消費ニ影響ヲ及ホスヲ亦大ナルヘシ

然ルニ尙ホ其物品ハ國中ニ於テ驕奢品ト見認ル者ニシテ專ラ富民ノミ之ヲ使用シ中等人民ハ僅ニ宴會ノ時ノミ之ヲ使用スル者ナルカ又ハ之ニ反シテ一般公衆ノ消費スル所ノ者ナルカヲ區別スルヲ要ス第一ノ場合ニ於テハ租

稅ノ増減ハ消費ニ即時ノ影響ヲ來タスヲ小ナルヘク試ニ咖啡ノ稅ヲ研究セハ毎年消費ノ發達ニ感スル所ヲ見スシテ稅率ニ三倍ノ變動ヲナシタルヲアルヲ見シ其此ノ如クナル所以ノ者ハ咖啡ハ重ニ富民ノ消費スル所ニシテ細民ハ咖啡店ニ於テ消費スルニ止ルニアリ富民若クハ中等人民ノ咖啡ヲ嗜ム者ハ其租稅カ百「キログラム」ニ付五十「フランク」ヨリ百「フランク」若クハ百五十「フランク」トナリシトテ之カ使用ヲ減スルヲナカルヘク實ニ「キログラム」ノ咖啡ヲ以テ多量ノ飲料ヲ製スルヲ得レハナリ下民若クハ勞力者ノ輩ニ至テハ咖啡店集會席ニアラサレハ咖啡ヲ喫スルモノニアラス是等ノ場合ニ於テ賣ル所ノ咖啡一碗ノ價ハ租稅ト原品ノ價ノミヲ以テ成ルモノニアラス其後一切ノ費用ヲ含有スル者ニシテ價ノ原素ハ店費ヲ以テ多シトス故ニ其租稅ニ五割ヲ増加スルモ小賣價ニ著シキ變動ヲ生スルニ足ラサルヘシ然ルニ年月ヲ經レハ一般ノ消費品トナルヲ得サル所ノ驕奢品ハ絶無僅有ナル者ニシテ割合ニ舊時ニ於テ咖啡消費ノ發達ハ租稅増加ノ爲メニ妨ケラレサルヲ以テ假令該稅ヲ減少スルモ其消費發達ヲ促カスニ足ラサリシナラント云フヲ

得サルナリ

又時トシテハ税率ノ増加カ幾分カ被税品生産費ノ減少ニ由テ償補セラレ、
トアリ是レ余輩カ前篇ニ於テ陳述セシ如ク酒精ノ税ニ於テ見ル所ニシテ當
時酒精ノ原價五分ノ四ヲ減シタルヲ以テ其税率ヲ五倍シタルモ敢テ其消費
ヲ減スルコトナカリシナリ

之ヲ約言スレハ租税ヲ増加スルハ之ヲ輕減スルヨリハ通例即時ニ國庫ノ收
入ヲ増加スルヲ得ル者ナリ然レトモ永年ノ間ニ收入ヲ得ル點ヨリ之ヲ見レ
ハ税率ヲ増加スル時ハ毎年ノ收入増加ヲ止ムルカ又ハ其割合ヲ減スヘク之
ニ反シテ大ニ税率ヲ輕減スル時ハ毎年收入ノ増加ヲ獎勵シ其歩合ヲ増加ス
ヘシ

租税輕減ノ物品消費ニ於ル影響ノ著シキ例証ハ英國ノ砂糖税ニ於テ之ヲ見
ルヘシ左ニ該税ノ輕減ニ由テ砂糖ノ消費ヲ變動セシ景況ヲ示サン千八百四
十四年前ハ英國ニ於テ外國産ノ砂糖ニ對シテ殖民地産ノ砂糖ヲ保護セリ然
ルニ千八百四十四年ニ該品ニ不同税ヲ課スルコトヲ廢セリ

年代

砂糖消費高

千八百四十四年	自由貿易ノ主義ヲ採用シ英國殖民地産ノ砂糖ニ同一ノ税ヲ課スルニ至リシ時	二二七、一四三噸
千八百六十四年	英國佛國自身諸國ノ間ニ砂糖會議ヲ開キタル時(租税輕減)	五二九、九一九噸
千八百六十九年	品位ニ從ヒ五十キログラム毎二十「フ	六一二、六九二噸
千八百七十年	ランク乃至十五「フランク」ノ税率	六九五、〇二九噸
千八百七十一年	税率半減即チ品位ニ從ヒ五十キログ	六九七、三九二噸
千八百七十二年	ラム「毎二十五「フランク」乃至七「フラン	七一五、〇〇〇噸
千八百七十三年	ク」五十「サンチー」ノ税率	七七九、〇〇〇噸
千八百七十四年	全率	八三〇、〇〇〇噸
千八百七十五年	五月税率半ヲ減シ品位ニ從ヒ五十「キ	九二〇、〇〇〇噸
	ログラム」ニ付ニ「フランク」五十「サンチ	
	ーム乃至三「フランク」七十五「サンチ	
	ムトナス	
	四月租税ヲ全廢ス	
	無税	

右ノ場合ニ於テハ租税輕減ノ消費上ニ於ル影響ハ頗ル著ルシ千八百六十九
年以後砂糖使用ノ發達ハ甚々盛ニシテ六年ニシテ其消費五割ヲ増加セリ而
シテ右ノ年間ニ砂糖ノ租税ヲ輕減シ次テ之ヲ全廢シタルト同時ニ茶及咖啡
ノ税ヲ輕減シタルコトアルヲ忘ルヘカラス是等ノ諸改正ハ英國人民ノ一大利

益タルヤ疑フヘキモノアラサルナリ

若シ進テ國庫收入ノ黠ヨリ之ヲ見レハ租税ノ輕減ハ即時ノ利益トナラサル
ヲ承認セサルヘカラス請フ左ニ千八百六十年以降英國砂糖税ノ收入高ヲ示
サン

年代

砂糖收入高

千八百五十九年度	一五〇、一七七、〇〇〇 ^{フランケ}
千八百六十年度	一五一、六八四、〇〇〇
千八百六十一年度	一五九、五八二、〇〇〇
千八百六十二年度	一六〇、六九八、〇〇〇
千八百六十三年度	一五三、六九七、〇〇〇
千八百六十四年度	一三一、三〇六、〇〇〇
千八百六十五年度	一三〇、七一、〇〇〇
千八百六十六年度	一四一、一九四、〇〇〇

(此年度ニ於テ税率凡ソ四分ノ一ヲ減ス)

千八百六十七年度

一三九五六一、〇〇〇

千八百六十八年度

一三七、六〇一、〇〇〇

千八百六十九年度

一三四、九一四、〇〇〇

千八百七十年度 (此年税率半ヲ減ス)

八〇、四七〇、〇〇〇

千八百七十一年度

七九、四九八、〇〇〇

千八百七十二年度

八二、一〇一、〇〇〇

千八百七十三年度(此年再ヒ税率半ヲ減ス即チ千八百十九年ニ於ル四分
ノ一トナル)

四六、〇七九、〇〇〇

千八百十四年度 (此年度ニ於テ砂糖税ヲ廢ス)

一、六八八、〇〇〇

右ノ表ハ前表ヲ補ヒ多少之ヲ修正スル者ニシテ租税ノ輕減ハ直ニ國庫ノ收
入ヲ増スニ足ラサルヲ示ス者ナリ則チ千八百六十三年度ニ於テ砂糖税凡ソ
四分ノ一ヲ減シ千八百六十四年度ノ收入ハ減税ノ前年即チ千八百六十二年
度ノ收入ニ比スレハ二千九百萬^{フランク}即チ一割八分ヲ減セリ而シテ五年
ノ後再ヒ該税ヲ減スルニ至ルマテ遂ニ前年ノ收入ヲ復セス千八百七十年

ニ於テ再ヒ該稅率ノ半ヲ減シ其收入ハ一億三千五百萬乃至一億四千萬「フ
ンク」ヨリ減シテ八千萬「フランク」トナリ實ニ四割乃至四割二分ノ損失ヲ來セ
リ千八百七十三年度ニ於テ又該稅ノ輕減ヲ行ヒ益右ノ事實ヲ証明セリ則チ
當年ニ於テ該稅率半ヲ減シテ其收入ハ八千二百萬「フランク」ヨリ四千六百萬
「フランク」トナリ四割三分乃至四割四分ノ損失ヲ來セリ由是觀之ハ租稅ノ過
重ナラサルニ當リ國庫ノ收入ヲ増スヘキノ意ヲ以テ租稅ヲ輕減セント欲ス
ルハ一ノ迷妄ト云フヘキナリ

然ト雖モ尙ホ一方ヨリ之ヲ見レハ租稅輕減ノ爲メニ大ニ消費ヲ發達スルハ
巨大ノ利ヲ有スルモノニシテ政府ニアリテモ間接ノ利益トナル者ナリ則チ
砂糖消費ノ擴張スルカ爲メニ諸營業ノ繁榮ヲ來タス「少ナカラ」ス假令全ク
國庫ノ失フ所ヲ償フニ足ラスト雖モ種々ノ點ニ於テ國庫ノ利ナシト云フヲ
得サルナリ

通信稅輕減ノ效驗ニ就テハ前篇ニ於テ之ヲ論セリ(本書第七篇ヲ見ルヘシ)
充分ニ效能アル租稅輕減ハ歲入ノ餘裕ヲ有スル政府ニアラサレハ之ヲ行フ

能ハサルナリ英國ノ財務政策ハ此點ニ於テ頗ル研究スルニ味ヒアリ實ニ聰
明富裕ニシテ且ツ五十年來未タ嘗テ巨費ニ困マサル國ニシテ始メテ斯ノ如
ク英斷勇決一時歲入ノ減少ヲ顧ミサル改正ヲ行フヲ得ヘキナリ

經濟上最モ不動ニ最モ常勢ニ最モ幸福ナル一顯象ハ租稅自然ノ增加是ナリ
余輩ハ已ニ數々本書ニ於テ其一般ノ事實ニシテ且ツ幸惠ナルヲ說ケリ(殊ニ
本書ノ第四篇ヲ見ルヘシ)此自然ノ增加ナキハ特リ不繁榮ノ國ニアリ尤モ(例
ヘハ)餓饉商業困難若クハ戰爭ノ如キ臨時ノ事アリテ暫時其進路ヲ止ル「ア
リト雖モ久シカラ」スシテ舊勢ニ復スルモノトス此增加ノ原因ハ人口ノ增加
國家生産力ノ増加農工ヲ盛ニスル所ノ器械上ノ發明常ニ現在ノ資本ヲ增加
スル所ノ貯蓄及ヒ其急劇ナルト遲緩ナルトヲ問ハス交換ノ標準ニ用ル金銀
價格ノ下落ニアリ都テ是等ノ原因ハ諸國ニ於テ常ニ同一ノ働キヲ租稅ノ増
加ニ及ホスモノニアラス例ヘハ金銀ノ下落ハ歴史ノ明カナルヨリ以降常ニ
一定ノ方向アリ或ル國ニ於テハ人口ヲ増減セサルモノアリ然ルニ貯蓄ノ増
加生産力ノ増加ニ至テハ其國ノ衰頽ニ趣クニ至ルマテハ必ス諸國ニ於テ見

ル所ノ顯象タリ都テ此ニ枚舉スル所ノ者ハ生産消費取引ノ度數及其高ノ增加ニ由テ皆其影響ヲ租税ノ收入ニ及ホヌヘキモノナリ

歲計ノ平均ヲ謀ルニ毎年ノ租税自然ノ増加ヲ算スルハ決シテ宜キヲ得タル者ニアラサルナリ如何トナレハ若シ或ル時代ノ間ニ就テ之ヲ見レハ租税收入増加ノ形況ハ規則立テ一樣ナルモ往々一時ノ間斷アルヲ免レサレハナリ然ルニ要用ナル改正ヲ行フニ當テハ政治家ハ此自然ノ増加ヲ算シテ其計畫ヲナスヲ得ヘキ者トス彼英國人カ税法ヲ整理シテ生産上ニ有害ナル諸税ヲ廢止シタルハ此自然ノ増加ニ依頼セシ者ニシテ千七百年代佛國ノ革命及ナポレオン帝ノ戰爭以前ヨリ英國ノ破産ニ至ルヘキヲ唱ヘタル所ノ杞憂者ノ説ヲ破リシハ實ニ此自然ノ増加ニアリ

英國間税ノ自然ノ増加ハ間斷ナク千八百十五年ヨリ千八百六十九年ニ至ルノ間ニ於テ國庫ノ收入一倍餘ヲ増セリ實ニ英國ノ歲計上實際ノ收入カ收入豫算額ニ超過セサリシハ甚タ稀ナリ若シ千八百六十九年ノ財政要覽(コント、セ子ラル、デ、ラドミニストラシオン、デ、フィナンス)五百十八葉ヲ披カハ千八百

四十年ヨリ千八百六十八年ニ至ル各年度ノ收入豫算ト實收入ノ表ヲ見ルヲ得ン該表ニ據テ之ヲ見レハ右ノ年度間ニ於テ實收入ノ豫算額ニ及ハサリシハ僅ニ二年ニシテ他ノ二十六年ハ實收入ノ豫算額ニ超過セシ平均三千萬乃至四千萬「フランク」ノ間ニアリ

前篇(第四篇)ニ於テ余輩ハ租税自然ノ増加ハ通例間税ニ大ニシテ直税ニ小ナルヲ説ケリ只其例外ニアル者ハ歲入税及遺傳税ノ二トナス此二税ノ自然ノ増加ハ甚タ大ニシテ間税ニ異ナラス如何トナレハ此二税ハ税率ヲ改正セス又ハ賦課ヲ變更セサルモ被税物件ノ發達ニ應シテ其收入ヲ増加スルヲ以テナリ

租税自然ノ増加ヲ利用スルヲ得ヘキハ英國ノ例ヲ以テ明カニ之ヲ証スルモノナリ英國ノ統計年表ニ據テ之ヲ見ルニ千八百五十年一月五日ヲ以テ終ル會計年度ニ於テハ英國ノ收入ハ十四億三千五百萬「フランク」五千七百三十八萬五千六百五十八「ポンド」ニシテ千八百七十五年三月三十一日ヲ以テ終ル年度ニ於テハ同國々庫ノ收入十八億七千五百萬「フランク」七千四百九十二萬

千八百七十三年「ポンド」トナリ千八百四十九年度ニ超過スル「ト」大約四億四千萬「フランク」ナリ

(初メ英國ノ會計年度ハ一月六日ニ始マリ翌年一月五日ニ終リシニ後之ヲ改メテ四月一日ヲ以テ年度ヲ開キ三月三十一日ヲ以テ之ヲ終ル者トセリ) 此増加ヲ生スル爲メニ右ノ二十六年間ニ於テ租稅ヲ増加シタルヤト云フニ決シテ然ラス却テ大ニ之ヲ輕減セリ千八百四十九年度ヨリ千八百六十三年度マテノ間ニ於テ稅率ヲ輕減シ若クハ課稅ヲ廢止シタル者八億七千九百萬「フランク」(三千五百十五萬千八百十八「ポンド」)ニシテ稅率ヲ増加シ若クハ新稅ヲ設置シタル者六億七千五百萬「フランク」ナリ是故ニ此十五年間ニ國庫ノ收入ヲ損シテ被稅者ニ恩賜セシ者ハ實ニ二億四百萬「フランク」ニ達セリ千八百六十五年以後千八百七十五年ニ至ル十年間ニ於テ租稅ヲ輕減シタル「ト」尙ホ遙ニ大ニシテ稅率ヲ輕減シ若クハ課稅ヲ廢シタル者六億九千二百萬「フランク」(二千七百六十六萬八千二百九十一「ポンド」)ノ巨額ニ達シ而シテ稅率ヲ増加シ若クハ新稅ヲ設置シタル者ハ僅ニ一億八千六百五十萬「フランク」(七百四十

四萬九千二百二十三「ポンド」)ニ過キス故ニ此十年間ニ於テ英國政府カ其收入ヲ捨テ被稅者ニ附與シタル者ハ五億六百萬「フランク」トナス若シ之ニ加フルニ千八百五十年ヨリ千八百六十四年ニ至ル時代ニ放棄シタル稅額ヲ以テセハ千八百四十九年度以降英國ニ於テ輕減シタル租稅ノ全額ハ七億千萬「フランク」即チ平均一ケ年二千八百萬「フランク」トナル然ルニ千八百七十五年ニ於テハ其收入ノ額千八百五十年ノ額ニ超ル「ト」尙ホ四億四千萬「フランク」アリ而シテ此二十五年間一大戰爭アリ即チクリミアノ戰爭是ナリ若シクリミアノ戰ナカラシメハ英國政府カ租稅ヲ輕減シタル惣額ハ千八百五十年以降千八百七十五年ニ至ル年間ニ於テ十億「フランク」ノ巨額ニ達スヘキヤ蓋シ疑ヲ容レサルナリ

斯ノ如ク租稅ヲ放棄シタルハ重ニ四箇ノ原因ニ由ル

- 第一 新市場ヲ開キ生産ノ便ヲ増シ大ニ英國ノ民富ヲ發達セシ「ト」
- 第二 千八百五十五年及千八百五十六年ノ外此時代ニ於テ英國ノ平和ナリシ「ト」

第三 官費ヲ暴増セサリシヲ尤モ經費ノ増加ハ開明國ニ於テ免ル能ハサル所ノ者ニシテ歐洲諸國ハ皆大ニ軍備ノ擴張ヲ以テ相競フカ爲メニ英國ニ於テモ多少政府ノ歳出ヲ増加セリ只大陸諸國ノ如ク非常ノ増加ナキノミ

第四 人口ヲ増加セシメ

佛國ハ此ノ如キ良果ヲ生セサルモ租稅自然ノ増加ハ敢テ小ナルニアラス又常ニ斷續不定ナルニアラス千八百七十年ノ戰爭以前ニアリテハ此増加ハ毎年四千萬フランクニシテ該戰爭以後ハ毎年五千萬乃至六千萬フランクニ達セリ

千八百七十四年ノ同稅ノ收入ニ比較スレハ千八百七十五年ニ於テハ其自然ノ増加一億四千萬フランク千八百七十五年ノ收入ニ比スレハ千八百七十六年ニ於ル自然ノ増加三千七百萬フランクアリ千八百七十七年ニ於テハ魯土ノ戰爭商業ノ困難内國ノ人心不穩ノ爲メニ千八百七十六年ノ收入ニ比シテ九百五十萬フランクノ減少アリ之ニ反シテ千八百七十八年ニハ

郵便稅電信料ノ改正アリシニ拘ラス千八百七十七年ノ收入ヨリ多キヲ六千五百萬フランクナリ

然ルニ佛國ハ數々戰爭内亂ニ會シ加フルニ政府ノ經費ヲ増加スルヲ意トセサルノ不幸ニ會セリ戰爭ハ租稅自然ノ増加ヲ停止シ而シテ公債ノ増加ヲ醸シ租稅ノ輕減ヲシテ益困難ナラシメ内亂モ亦均ク災厄ニシテ一國經濟ノ發達ヲ妨ケ加之ナラス佛國ノ執政家及立法官ハ租稅自然ノ増加ヲ見ルヤ之ヲ以テ租稅ノ輕減ヲ謀ルヲ思ハス忽チ之ヲ分テ各種ノ行政事務ニ供スルヲ常トセリ千八百十五年ヨリ千八百七十年ニ至ルマテ佛國租稅ノ惣額ハ未タ嘗テ其減少セシヲ見ス假令某種ノ租稅ヲ輕減スルモ直ニ新稅ヲ設置スルカ若クハ他ノ舊稅ノ率ヲ増シテ以テ之ヲ償補セリ例ヘハ千八百四十八年二月ヨリ千八百六十四年ノ終ニ至ルマテ佛國ニ於テ租稅ヲ輕減シタル者三億三千七百五十萬フランクアリ然ルニ一方ニハ租稅ヲ増加シタル者三億二千八百五十萬フランクアリ故ニ輕減ノ増加ニ超過スルヲ僅ニ九百萬フランクニ過キサルナリ之ニ反シテ同時ニ英國ニ於テハ租稅輕減ノ増加ニ超過セシ者ニ

億四百萬、フランスに達セリ

若シ佛國ニシテ第十九世紀ノ末年ニ當リ常ニ平治ヲ樂ミ行政上節約ヲ力メハ此二十一年ニシテ生産ヲ妨害スル所ノ諸稅ヲ廢シ不平均ニシテ割合ニ富民ニ輕ク貧民ニ重キ所ノ租稅ヲ改正シ現今ノ稅額凡ソ十億、フランスヲ減スルヲ得ヘキハ余輩ノ疑ハサル所ナリ果シテ斯ノ如クナラハ次ヲ逐フテ大ニ租稅ヲ減シ小急大急ノ運搬稅、紙、石鹼、ステアリン、摺附木等ノ如キ製造品ニ課スル諸稅殖民地產品ノ外他ノ物品ニ課スル關稅ヲ廢止若クハ輕減シ鹽稅ヲ廢シ大ニ郵便稅、電信料、記錄稅、印紙稅、酒精稅、葡萄酒稅ヲ減シ又市邑入市稅ヲ廢スルヲ得ヘシ

然レトモ旅客運搬稅ハ五分ノ輕稅ヲ課シテ之ヲ存スルモ妨ケナカルヘシ小急運搬稅及石鹼稅ハ已ニ千八百八十八年ニ之ヲ廢セリ又同年郵便電信ノ改正ヲ行ヘリ

余輩ヲ以テ之ヲ見レハ鹽稅ヲ廢止スルハ農業ノ爲メニ好ムヘキナレトモ其運轉及製造ニ有害ナル諸稅ヲ存スルニ當テハ廢セサルモ可ナルヘシ

右ノ計畫ハ妄想ノ如シト雖モ英國ノ例ニ據テ之ヲ見レハ久ク平和ヲ樂ミ財政ノ處理宜キヲ得ル時ハ二十五年ニシテ著大ノ成績ヲ生スルニ足ルヲ証スヘシ加ルニ永遠公債ノ借換年賦公債ノ償却ニ由テ益租稅ヲ輕減スルノ便ヲ得ヘク又其効驗ハ前者ノ如ク大ナラサルモ直稅ノ改正ヲ行ハ、多少租稅輕減ノ便ヲ助クヘキナリ然ト雖モ余輩ハ此ニ一言スヘキモノアリ租稅自然ノ増加ハ佛國ニ於テハ其英國ニ於ルヨリモ稍々小ナルヘキト是ナリ何トナレハ人口ノ増加ハ消費稅ノ收入ヲシテ自然ニ増加セシムル所ノ一原因タリト雖モ佛國人口ノ増加ハ英國人口ノ増加ヨリ小ナルヲ以テナリ千八百四十九年全英國ノ人口ハ僅ニ二千七百萬ニシテ千八百七十五年ニ於テハ三千二百七十三萬七千六十八ニ達セリ是レ千八百四十九年ニ比スレハ千八百七十五年ニ於テハ消費者被稅者ノ多キト五百五十萬人ニシテ實ニ二割ノ増加ヲ致セシ者ナリ之ニ反シテ佛國ハ千八百七十五年ニ於テハ二十五年前ニ比シテ消費者被稅者ノ多キト僅ニ二百萬人即チ六分ヲ増加セシニ過キス由是觀之ハ兩國ニ於テ租稅自然ノ増加ニ大小異同アルハ素ヨリ自然ノ常勢ナリ

此自然ノ増加ニ依テ英國ニ於テハ紙稅、石鹼稅、硝子稅、煉瓦稅、鹽稅、砂糖稅ヲ廢シ巨數ノ物品ニ關稅ヲ課スルヲ止メ印紙稅ヲ改正シタル等枚舉スヘキ者少ナカラス

歲入稅ハ本文ノ改正ヲ補助シタルト頗ル大ナリ然レトモ租稅自然ノ増加カ此改正ニカアルハ遙ニ大ナリトス如何トナレハ近年歲入稅ニ由テ徵收スル所ノ者ハ僅ニ一億乃至一億五千萬「フランク」ニ過キサレハナリ

是故ニ英國ニ於テハ方今蒸酒及麥酒ノ外製造品ニ稅スル者ナク飲料品及煙草ノ外一般ノ消費品ニ稅スル者アルヲ見サルナリ

租稅ノ事ニ關スル一ノ要點ハ一般負擔ノ輾轉是ナリ抑モ租稅ハ多少歲月ヲ經過スル時ハ遂ニ實際ニ之ヲ負擔スル者ヲ變スルニ至ルヘシ實地ノ成績ニ由テ之ヲ考ルニ舊置ノ租稅ハ其效驗新設ノ時ニ於ルト同一ナル者ニアラス例ヘハ動産ニ租稅ヲ課スル時ハ其之ヲ負擔スル者ハ當時ノ所有者ニシテ當時ノ所有者ハ其稅額ニ當ル歲入ヲ損シ又内國普通利子ノ割合ニ據リ此稅額ヲ資本ニ積算シタル額ニ均キ資本ヲ失フヘシ然レトモ多少歲月ヲ經過スル

後ハ新ニ生スル動産ニ於テハ(假令悉ク然ラサルモ新ニ發セララル、負債證書ニ於テハ)此租稅ヲ負擔スル者ハ應募者ニアラスシテ其證書ヲ發行スル所ノ會社若クハ事業ニアルヘシ若シ勞銀若クハ一般ノ消費品ニ租稅ヲ課スル時ハ(一般ノ消費品ニ租稅ヲ課スルハ其結果勞銀ニ課スルト同シ)其始メ之ヲ負擔スル者ハ勞力者ナルヘシ然ルニ久キヲ經レハ多クハ之ヲ使役者ニ讓リ使役者ハ又此負擔ヲ以テ消費者ニ課スヘシ製造家若クハ商賈ニ租稅ヲ課スル時ハ其一般ノ費用ヲ増加シ其始メハ此輩ノ利益ヲ減縮スヘシ然ルニ若シ之カ爲メニ利益ヲ減シテ損失ノ危險ヲ償フニ足ラサルモハ漸次其營業ヲ廢スルニ至ルヘク遂ニ其課セラレタル租稅ノ大部分ヲ以テ消費者ニ拂ハシムルニ至ルヘシ只右ノ如ク負擔ヲ輾轉セサル者ハ地租讓與稅及他ノ例外ノ諸稅トス此ノ如ク舊社會ニ於テハ久ク已ニ行ハル所ノ諸稅ヲ集合シタル一種ノ稅アリテ人カヲ須ヒスシテ使用ノ歩合ニ應シ各個人ニ分配セララル是故ニ已ニ行ハル、所ノ稅法ニ於テハ其効驗タル未タ嘗テ外形ニ於ルカ如ク不平均ナラサルナリ某ノ稅ヲ拂フ者ハ某級ノ人民ナルヲ以テ之ヲ負擔スル者ハ某

級ノ人民ナルヘシト思フモ實際ニ於テハ巨數ノ他ノ人民ヨリ知ラスシテ之ヲ拂フニ至ル夫レ社會ハ屈伸自在ノ一生物タリ歲月ヲ與フレハ其課セラレタル負擔ヲ以テ自ラ之ヲ其總機關ニ配賦シ其力ニ比例セシメテ違ハサルナリ

租税ノ負擔輾轉シテ一般ノ社會ニ歸スヘキノ顯象辨明セラレテ此ニ學理上一ノ真理ヲ得タリト云フヘシ實ニ租税ノ不平均ハ社會上ノ屈伸力ノ整理質トニ依テ自然ニ修正セラレ數多ノ租税ノ不平均ハ敢テ喜憂ト羨嫉ヲ生スルニ足ラサルハ聊カ心志ヲ慰安スル者ト云フヘシ然ト雖モ此顯象ノ働キヲ見認ルト過大ナラサルヲ要ス殊ニ方今ニアリテハ此輾轉ノ働キ往時ノ如ク十分ナラサルヲアルヲ忘ルヘカラス實ニ方今ノ國民ハ孤立ニアラス廣ク國境ヲ開ヒテ外國ノ生産品ヲ容レ外國ノ勞力者ハ國內ニ來ルヲ得ヘク資本モ亦人民ト均ク外國ヨリ移入スヘク又或ハ外國へ輸出スルヲ得ヘシ此景況ハ關税法ノ改良通信運搬ノ進歩ヨリ生スル所ノ者ニシテ租税負擔ノ輾轉シテ全社會ニ普及スルヲ妨ケ多少此顯象ヲシテ完全ナル能ハサラシムルモノナリ

例ヘハ若シ工業家若クハ商賈ニ課スルニ特別ノ租税ヲ以テセハ此輩ハ之ヲ以テ消費者ニ負擔セシムルノ困難ナルヲ覺ユヘシ如何トナレハ外國品ノ來リテ競争スヘキ者アルヲ以テナリ若シ勞力者ニ特別ノ租税ヲ課スルモ若クハ一般ノ消費品ニ特別ノ租税ヲ課スルモ一般ノ消費品ニ租税ヲ課スルハ勞力者ニ租税ヲ課スルニ同シ勞力者ハ此負擔ヲ以テ使役者若クハ消費者ニ讓ルノ困難ナルヲ覺ユヘシ如何トナレハ租税ノ割合ニ勞銀ヲ増加スレハ内國生産品ノ原價騰貴シテ外國品ト競争スル能ハサルニ至ルヘケレハナリ加之ナラス假令無上ノ保護政策ヲ施行スル國ト雖モ其國生産品ノ一大部分ハ輸出ニ供セラル、ヲ以テ佛國ニ於テハ毎年製造品ノ價格二十億フランクナル者ヲ輸出ス(生産者ニテモ勞力者ニテモ使役者ニテモ如何シテ内地ノ租税ヲ以テ外國ノ消費者ニ負擔セシメンカ甚々困難ナルヘシ

斯ノ如ク特別ノ租税ハ輾轉シテ遂ニ一般社會ノ負擔トナルヘキ顯象ヲ辨明スルヲ得ヘシト雖モ其效驗ハ完全ナラス加ルニ數多ノ歲月ヲ要スル者ナリ是等ノ論點ニ據テ之ヲ見レハ租税負擔ノ輾轉ハ決シテ被稅者ノ財力ニ比例

セサル租税ヲ設置スルヲ當然トスルニ足ラス又之ヲ恕スルノ口實トナスニ足ラス只其不平均ナル租税カ舊時ノ設置ニ係ル者ニシテ大不便ナキ者ヲ保持スルノ口實トナスニ過キサルナリ若シ勞力者勞銀ノ増加ニ由テ租税ノ償ヲ得ヘントノ口實ヲ以テ一般ノ消費品ニ租税ヲ課シ若クハ工業家商賈ハ負擔ヲ消費者ニ讓ルヲ得ヘントノ考ヲ以テ工業商業ニ過重ノ税ヲ課セハ現ニ人民ノ或ル級ヲ苦シメ後日ニ徐々トシテ其辛苦ヲ減シ若クハ償ヲ得ルモ遂ニ完全ナラサル所ノ效驗ヲ期望スル者ト云フヘシ凡ソ一國ニアリテハ誤謬ノ修正ヲ以テ自然ノ力ニ托スヘキモノニアラサルナリ故ニ其行フヲ得ヘキ時ニ方テハ其改正ヲ躊躇スヘカラス市邑入市税及飲料税ノ如キハ假令或ル勞銀ノ増加ニ由テ多少勞力者ノ負擔ヲ償フ者アリト云フヲ得ヘキモ該税ヲ廢止シ若クハ之ヲ輕減スルニ當テハ決シテ狐疑猶豫ヲナスヘカラス

租税ノ負擔ハ如何ニ國民諸級ノ間ニ配賦セラルハヤヲ攻究スルハ一ノ有益ナル論題タリ加ルニ此論題タル頗ル縝密ナル者トナス如何トナレハ數種ノ租税中商品ノ運搬税印紙税ノ如キ社會ノ諸級ニ分賦シテ之ヲ見ルノ難キ

者少ナカラサレハナリ故ニ只其全面ヨリ觀察ヲ下シテ之ヲ言ヘハ佛國ニ於テハ租税ヲ負擔スルノ最モ大ナル者ハ市府ノ勞力者ニシテ之ニ反シ其最モ負擔ノ輕キ者ハ大小ノ土地ヲ有シ其消費ノ一部分ヲ所有地ノ收穫ニ取ル所ノ村落ノ居民トナス彼ノ葡萄酒林檎酒ノ如キ自ラ生産シテ消費スル者ノ租税ヲ免除セラルハ吾人ノ知ル所ナリ是等ノ地主ハ僅ニ地租(舊政ノ時土地ノ負擔セシ所)者ニ比スレハ其輕重霄壤ノ異アリ(人頭及動産税)村落ニ於テハ甚々輕ク(門窓税道路ノ爲メニスル賦役税砂糖咖啡ノ如キ驕奢品ノ消費高ニ應スル租税其他商品ノ運搬税印紙税等一般ノ租税ニシテ負擔スル所幾分ナルヲ知ル能ハサル者ニ過キス其他佛國ニ於テ租税ノ負擔最モ輕キ者ハ巨額ノ公債証書ヲ有シ巨大ノ家賃ヲ要セス豪奢ニ耽ラサル所ノ富民トナス

一國人民カ租税ノ負擔ニ堪フヘキ制限ハ觀察ヲ以テ指示スルヲ得ヘキヤ否ヤヲ尋ルニ敢テ能シ難キニアラサルヘシ抑モ租税ノ負擔重キニ過ル時ハ國勢衰敗シ居民減少シ耕殖廢頓シ資本外移スヘシ是レ往時西班牙及荷蘭ニ於テ見ル所ニシテ現ニ土耳其ニ於テ最モ著明ナリ然ラハ則チ租税ニ制限ア

ル者ニシテ此域ニ達スルハ一國ノ經濟上社會上政治上ノ秩序忽チ敗壞スヘシ然ルニ此制限ハ如何ナル者ナルヤハ豫メ理ヲ以テ論スヘカラス其國ノ貧富人民ノ習俗耐忍力ニ由リ國ニ依リテ異ナリ時代ニ依テ異ナリ故ニ此國ニ於テハ苦情モナク民力ヲ損セスシテ國稅地方稅トシテ人民歲入ノ一割二分若クハ一割五分ヲ徵スルヲ得ヘキモ彼國ニ於テハ七分若クハ八分ノ租稅ニシテ已ニ其重キニ堪ヘサルモノアルヘシ佛國ニ於テハ方今國稅地方稅ヲ合セテ大約三十五億フランクニ達ス而シテ概測ニ據レハ全國民ノ歲入ハ惣テ二百億フランクヲ下ラス二百五十億フランクヲ上ラスト云フ然ラハ則チ佛國人民カ中央政府及地方政府ニ拂フ所ノ者ハ其歲入ノ一割五分若クハ一割六分ニ當ル者ト云フヘキナリ

租稅徵收ノ規則方法ニ至テハ余輩ハ此ニ攻究セサルヘシ是學理上ノ問題ニアラスシテ寧ロ經驗ト術トノ論題ナレハナリ只此ニ一言ヲ要スルハ請負徵收ノ方法是ナリ元來請負徵收ハ或ル格段ナル者ノ利益ノ爲メニ國民ヲ抑壓スルモノニシテ人民ノ憤怨ヲ招キ嫌惡ノ情ヲ盛ニスルヲ以テ頗ル厭フヘキ

モノトス只一時或ル特別ノ稅ニ於テ行政ノ不完全ナル國ニ行フハ尙ホ恕スルヲ得ヘシ例ヘハ以太利ニ於テ烟草稅ヲ請負徵收トナシタル如キハ良好ノ結果ヲ得タリ該國ノ烟草稅請負徵收ハ眞ノ特占營業ヲ以テ行フ者タルヲ忘ルヘカラス佛國ニ於テ摺附木稅ノ場合ニ於テ舊時ノ請負徵收方法ノ再現セルヲ見テ人民ノ憤懣ヲ發シタルヲアリ

本書ノ第一卷ニ論究セシ所ノ者ヲ約言スレハ第一一國カ巨額ノ負債ヲ有シ而シテ巨萬ノ軍隊ヲ備ヘント欲スルニ當テハ或ル間稅ヲ行フハ止ヲ得サルナリ第二運轉生産ヲ妨ル所ノ租稅廢止ヲ促シ直稅ヲ改良完備セサルヘカラス第三佛國ヲシテ鹽葡萄酒ノ如キ普通ノ消費品ニ課スル所ノ租稅ヲ漸廢シ記録稅ノ不平均有害ナル者ヲ改正セシムルヲ得ヘキハ租稅收入自然ノ増加ニアリ然レトモ此大事業ヲ成サント欲セハ須ラク二十五年ノ平和ト經費ノ節儉ヲ要スヘシト云フニアリ

歐洲西部ノ諸國殊ニ佛國ハ五十年以降民富ヲ増殖セシヲ實ニ大ナリトス然ルニ不幸ニシテ數々政治上ノ失擧アリテ變亂戰爭ノ爲メニ其富ヲ消費セシ

一少ナカラス若シ將來此不幸ノ因ヲ除クヲ得ハ國家經濟ノ景況次ヲ逐テ改
 進セン然ラハ則チ後世子孫ハ勞セスシテ吾人ノ建設シタル有益ナル土功即
 チ鐵道堀割道路海港等ノ利ヲ占有シ民富ハ發達シテ止マス中央政府及市府
 ノ作業上財務上ノ財產ハ大ニ増加スルニ至リ果シテ平和ヲ維持スルヲ得ハ
 公衆ノ負擔日ニ月ニ輕減スルニ至ラン
 余輩ハ千九百五十年以後鐵道線ヲ以テ公有財產ニ列スルヲ得ヘシトナス
 市府ニ於テ允可シタル用水瓦斯等ノ市有トナルヘキ期限ハ多少此ヨリ速
 カナルヘシ之ヲ以テ余輩ハ本卷ニ於テ作業上財務上ノ財產ハ國有市有共
 ニ第二十世紀ニ於テ大ニ増加スヘキヲ辨セリ
 租稅ノ改正ヲ行フニ必要ナル情件トスルハ平和ニアリ若シ平和ニシテ期ス
 ヘカラサレハ意ヲ經濟上ノ規則ニ注クモノナケレハナリ千八百七十九年ノ
 始ニ當リ諸國ノ中英國ノ稅法最モ整頓シ不平均最モ少ナキ所以ノモノハ獨
 リ大藏長官ノ聰明英智ナルニ由ルニアラス又五十年以降一ニ外患ヲ避ケ平
 和ヲ維持シタル功果ト云フヘキナリ若シ佛國ニ於テ果シテ此必要ナル二者

即チ時日ト平和ノ助ヲ得ハ租稅ノ改正ヲ行フ一敢テ難キニアラサルナリ

租稅論大尾

正誤

六十六丁二行 五十。五百二十五。五千。五百二十五ノ誤

八十九丁十一行 且ノ下ツノ字ヲ脱ス

百十九丁十四行 千八百四十九半。ハ千八百四十九年ノ誤

二百二十四丁九行 「サンテーム」ハ「サンチーム」ノ誤

二百五十二丁六行 六ノ下分ノ字ヲ脱ス

二百五十九丁十行 輕費ハ經費ノ誤

二百九十一丁八行 免レタル者ハ免レサル者ノ誤

三百十七丁四行 テヒハ勢ヒノ誤

四百二丁十行 該稅フハ該稅ヲノ誤

六百二十六丁ノ次丁數 二百二十七。二百二十八。六百二十七。六百二十八ノ誤

山形地方裁判所

發行所

明治十九年五月十七日再版屆

（定價金貳圓六拾錢）

大藏省藏版

東京銀座四丁目

博聞本社

大坂備後町四丁目

全分社

千葉縣下千葉町

全分社

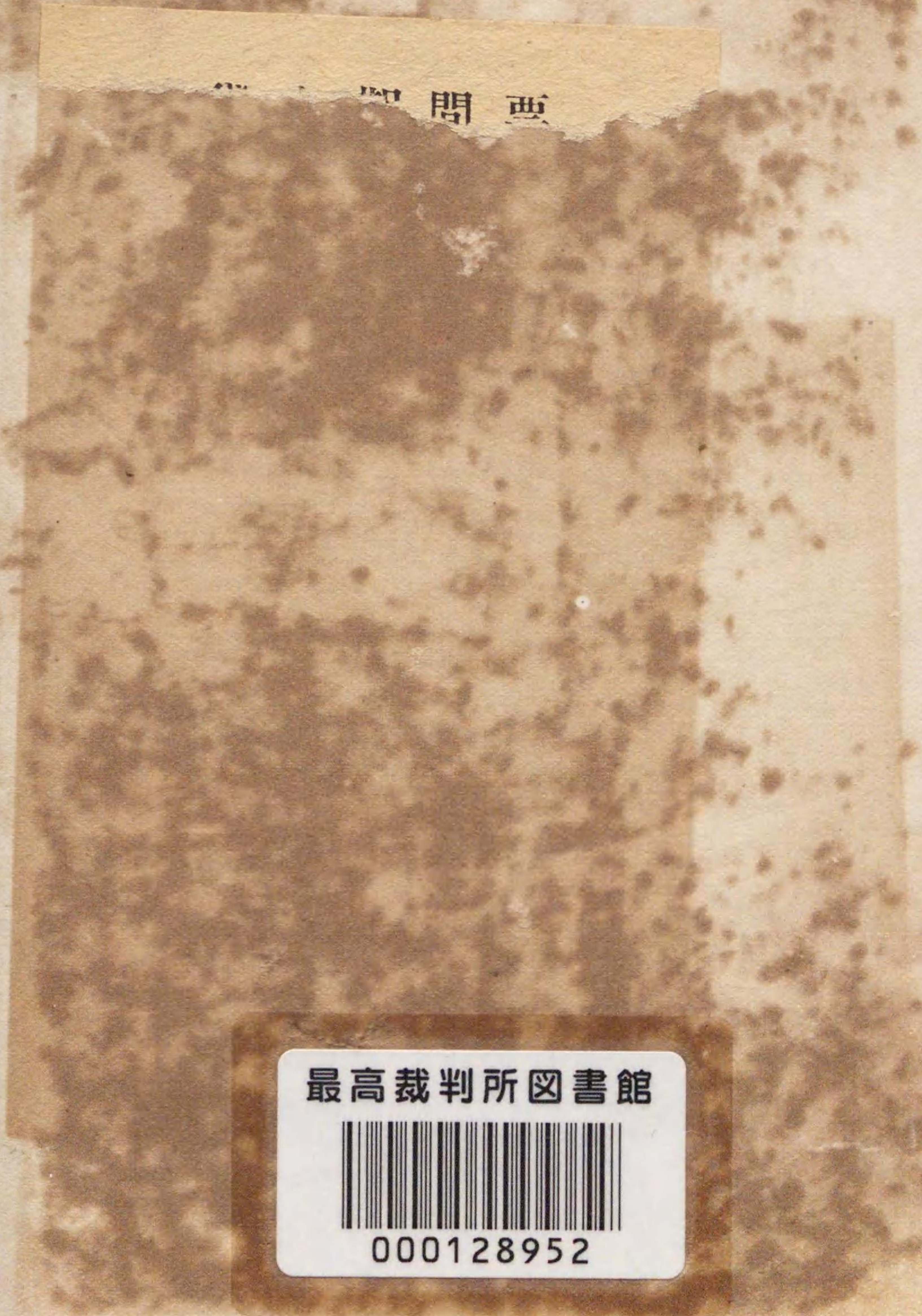
埼玉縣下浦和驛

全分社

七
イ
ヲ

3719

問 要



最高裁判所図書館



000128952



